3—87

顧問 大隈重信 會長 島田三郎
同 森村市左衛門 副會長 安部磯雄

(明治四十四年八月一日第三種郵便物認可)
(大正四年三月十五日發行)
(毎月一回十五日發行)

廓清

第五巻 第三號

■廓清時言……江南
□選擧道德論……大隈重信
■根本的廓清……龜山善三郎
□歐米最近婦人運動史……安部磯雄
■大阪三週年大會記……支部報告
□飲酒の子孫に及ぼす影響……片山國嘉
■洲崎事件の辯論に就て……光鹽生
■天下の鵜澤博士に一言……曾根正藏
□醜業公認の謬制……上杉愼吉
■是廓清の賜也……出口榮藏
□現代婦人の使命……益富政助
■天皷のひゞき……小原克己
□或る女に與ふる書……日向きむ
■小說『春の家』……大石枕月
□川崎遊廓の大暴行……伊藤江南
□日本佛敎と遊廓……千葉鼓堂
■婦人の自由と娼婦(英文)……シールド

東京 廓清會本部 發行

私の大なる慰安！

朝夕食後にライオン齒磨で
口を淨めた時には、言ひ知れぬ愉快と
明るい氣分になります。
ライオン齒磨あればこそ
齒も丈夫、體も丈夫で
毎日元氣よく暮らせます。

私の大なる安心！

毎月一回 一日發行

定價一部 十五錢

開拓者

三月號内容

▼吾人の平和道……社説 ▼起立主義を勸む……小松武治
□基督教文藝の振興を促す……文學士 小松武治
□近代人はクリスチャンたり得る乎……マシウス博士
□問題を有する國民……マスター・オブ・アーツ 中村長之助
□閑却されたる教育上の一問題……文學士 瀧浦文彌
▼貴き平凡生活……左近義弼 ▼生命の定義……尾島眞治
□千葉の一日……觀潮生 □古井戸物語……木村久一
▼神聖なるべき議政壇上……高橋白雲 ▼基督の人物研究……栗原基
□素人傳道論……救世軍大佐 山室軍平
□今岡學士に與へて「基督」を論ずる書……前島潔
□如何にして基督を紹介すべきか……植村正久
□祈禱の意義及び其力……今井壽道
□一流の事業と二流の人物……社説 □於古撿句……俳句

日本基督教青年會同盟本部
東京市神田區美土代町三丁目

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

山室軍平先生著

社會廓清論

定價壹圓
本會員に限り三割引
外に郵税八錢

日本のブースとして一世の景慕する處たる我が山室軍平氏が、心血を注がれたる大著『社會廓清論』が警醒社から出版せられた。全篇を七章に分ち、第一章現存の奴隷制度、第二章娼妓の百人研究、第三章公娼廢す可し、第四章公娼廢止善後策、第五章藝妓論、第六章海外醜業婦、第七章基督教と風俗論といふ風になつて居る、四六版五百餘頁である。例によつて通俗平易で、而も犀利明快に論斷せられてある事は贅する迄もあるまい。會員諸君の一讀を是非推稱すると共に、大方に吹聽あらん事を切望する。希望者は直接本會に申込まれたい。

廓清會編

娼妓自由廢業案内

定價十五錢
郵税とも

娼妓の問題を卑しい事とけなして自ら高しとし、無關心の事として居る者は、未だ眞の自覺に這入つた者ではない。之我等の姉妹の死活の問題である、否自分の子弟友人の大問題である二十世紀に殘された唯一の人道上の大問題である殊に同性の人にとりては最も重要な婦人問題であらねばならぬ、女子を男子の玩弄物視する思想は實に茲で養成せらるゝのである。新しがる婦人達が之に眼を放たないに至つては我等は何處に覺めた處があるかを疑はずには居られないのである。

娼妓とはどんな生活をしてゐる者であるか、悲慘な奴隷のそして醜穢な節操賣買の生活から如何にこれを救ふ可きか、我等は何故自由廢業を奬勵すべきか等を、本書は詳細に語つてゐる。

さけきらいになる藥

身體無害
有効保證

禁酒丸

●定價 半週分六拾錢 ●貳週分壹圓九拾錢
一週分壹圓 ●三週分貳圓八拾錢

からだに少しもがいなくどんな酒●煙草のみでもきらいになり益々壯健になること保證早くためして御らんなさい

禁煙液

たばこきらいになる藥

―●定價五拾錢―●壹圓―●壹圓五拾錢●―
●●●●郵券貳錢送附あれ兩藥の説明書送る●●●●

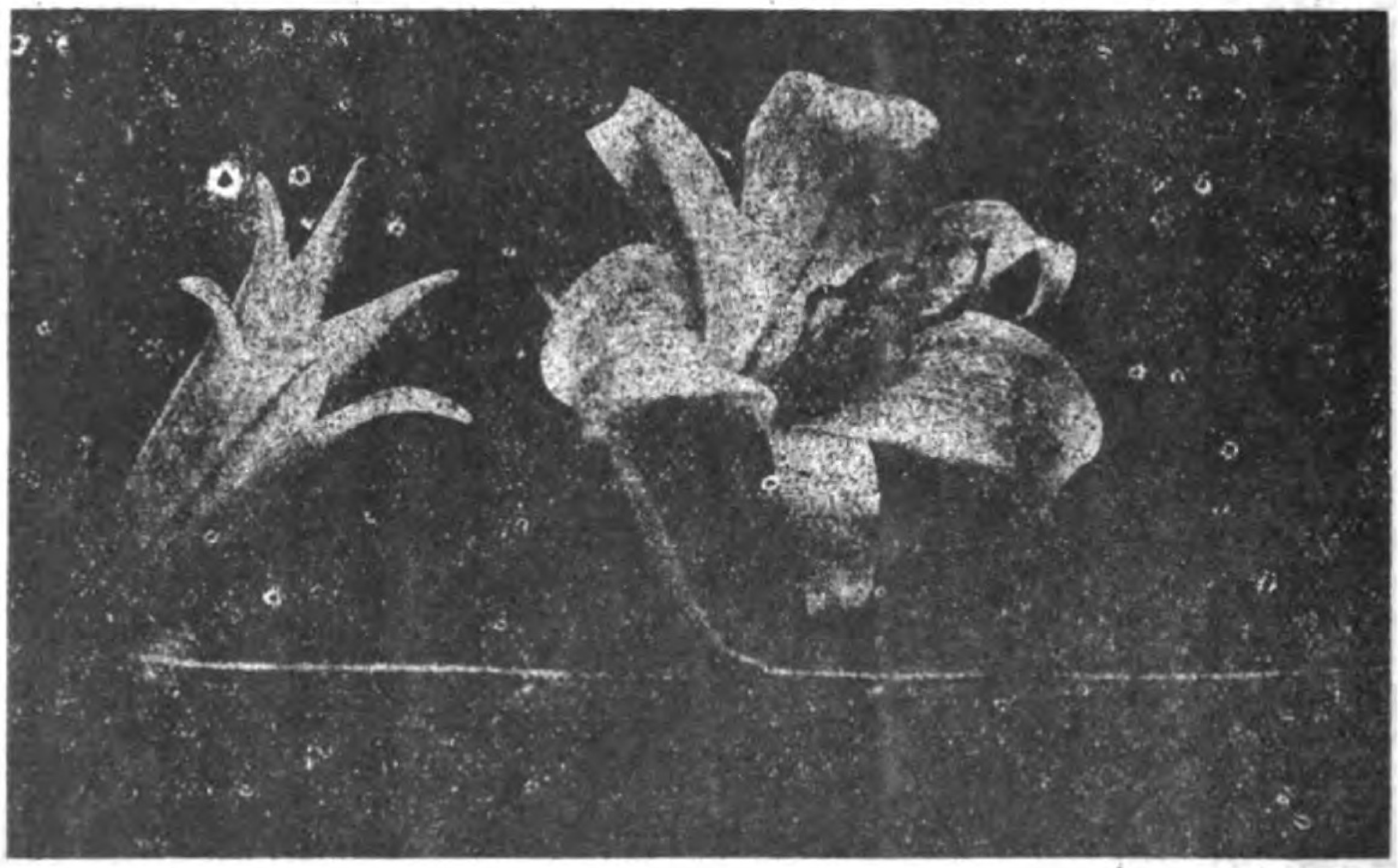
本舗 大阪靭南通二丁目 森田商店

●御送金は振替口座大阪貳一壹二六番

廓清
THE PURITY

第五卷　第三號

大正四年三月



廓清時言

總選擧愈々迫まる

總選擧は目捷の間に迫れり、吾人は元より不偏不儻。現内閣の存續も、政友會の捷利も我に於て何かあらん。要は吾人の主張を理解し、其主張を實行するに近き内閣の出現するに於て、始めて意義あり。而して此見地より現内閣を觀るに、未だ吾人の理想の幾何か實現せられたるを知らずと雖所謂『非新橋内閣』として歴代の待合政治より擺脱せる點に於て吾人之に與す。豈敢て本會顧問たる伯大隈を首相に有するが故の情とせんや。假し會長島田氏が臺閣の椅子に凭るありとすとも、吾人の理想に反する施政をなすに於ては、邀擊焉んぞ一毫も假す事をなさん。吾人は歴代の臺閣諸公によりて、餘りに苦き杯を呑ましめられたるが故に之を云ふのみ。

手腕か人格か

吾人は吾人の代議士として何人を選ぶべきか、好餌を以て我等を釣らんとするが如き不埒なる候補者は、又やがて好餌の爲めに選擧民を賣るの代議士也。而して吾人も憲政の運用に政黨の利益あるを知る。されど今日の如く政黨が專制主義を採り、黨爭の爲めに國政を弄んで憚らざるを見るに於ては、吾人は先づ今次の總選擧を機とし、此弊を矯めじめんが爲めに黨派の如何を問はず人物本位の選任をなす可きを主張す。而して人物本位とは手腕の謂ひか人格の義か、吾人を以て見れは人格なきの手腕は、たゞ恐るべくして服す可からざるを既に充分に經驗したり。人格なきの手腕とは畢竟譎詐變幻の事のみ、而して人格とは公明正大の事也。立憲政治とは

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

其の果して孰れぞや。吾人が宿昔廢娼の志を伸ぶるは今は其の絶好の時に非ずや。

川崎の遊廓と警察と町民と

救世軍の二士官が重傷を負ひたるが如き（詳細別項）無警察狀態の再三演せらるゝ所以のものは、醜業者が娼妓の人格を無視して之れを自己占有の財產視するより生ずる悲劇なるは勿論なれど、道義の何物たるかを解せざる彼等の痛苦と、人道の爲めに戰ふ我等の自由廢業戰とは、到底永劫に相容るゝ事なく、幾度か繰り返さるゝ事なる可し。而して其責め國家が之を營業として公認するにある事極めて明白なるを思ふ

而して之に對する川崎警察署の措置暴戾を極め正に吾人の嚇怒に値す。我等は各地の警察が常に醜業者の債權（人身の賣買）を擁護して正業に復せんとする弱者の自由を壓迫し（奴隷たらしむる事を幇助し）つゝあるは無識か故意かを疑ひつゝありしが、今や我が發行所々在地に此怪事を見る。斯の如くんば遊廓と警察との間に何等か伏在するものなきかを怪しむ者あるも亦宜ならずとせず、『警察は人民の命を聞く處に非ず上官に對して責を負ふのみ』と放言して憚らざるが如き非立憲なる人民を基礎とせざる警察は吾人其存在を非とす。

更に之に關聯して吾人は町民の冷酷なるに一驚を喫したり。某理髮店は山田氏の休憩を許さず、山田醫院は治療をすら拒みたり。現代は敵國の兵と雖赤十字は之に厚き救護の手を加ふ、然るに獵師も之を殺さゞる窮鳥を追うて治療を拒むに至つては其冷酷無情言語に絶す、醫は仁術とさへ云ふものを、川崎町民たる者仁義を解さば、冀くば彼等を膺懲せよ。

東京府の私娼公認問題

二月二十一日の朝日子は、「十九日東京府參事會衞生常置員會に於て、警視廳の各部長等出席して、花柳病の取締に困じ事ろ府下の藝酌婦類約二萬人に月一圓宛の税を賦課して私娼の鑑札を與へ、檢梅をなす事とせば、花柳病撲滅に要する費用は優に之れを得らるべしとなし愼重調査を遂ぐる事となりたり」云々との意を傳へたり。之れ何等の怪報ぞや、公娼を廢して私娼として公認せんとならば尙議論の餘地あらん世界に比類なき大袈裟なる公娼制度を有し乍ら、二重に私娼制度を布かんとするに至つては咄々怪事に非ずして何ぞ。

萬朝報が「公私の賣淫の如きは如何に嚴重に之を取締るも過ぎたりとなさず、然るに十分の取締をも敢てせずして密賣淫を公認せんとするが如きは、故らに世を汚さんとするの擧也」と云へる頗る吾人の意を得たり。されど吾人を以て見れば私娼の取締をなさゞる所以のものは實に一方に同一行爲を認むるが故に、なし得ざるにあり、法に權威あらざるの罪也。

然れども彼等が公娼制度を認めて猶私娼の取締に難じ、遂に此の自家撞着の議題が、研究さるゝに至りたるは、即ち吾人の論陣に不知不識の裡に降旗を掲げて近接し來りたるものと見るを得べく、又快ならずとせず。

女子貞操保障の新判決

本誌一月號に於て三輪田元道氏は『形式生活より內客充實へ』の題下に內緣の妻の問題を論じ、國法が僅に戶籍吏の手に一片の紙片の屆けらるると否とによつてのみ、夫婦關係を

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

定め、毫も國民の實生活に基礎を置かざるを大に難せられたるが、去月二十七日我が大審院は斷々として舊習を排し、愉快極まる判決の一大新例を開きたり。卽ちそは結婚後未だ入籍するに至らずして離婚されたる女の婚約破棄に對する損害賠償にして、本件の判決によれば男子が許婚又は内緣の名の下に、女子の貞操を蹂躪して法規上の夫婦となる事を拒みて弊履の如く棄てつゝありし者が、精神上又は物質上の損害賠償の責めを負ふ事となりたるを以て、女子の貞操の之れによつて保障せらるゝ事殆んど想像の外にあり。斯の如くして歩一步吾人の理想に近きつゝある事を思ふ時、歡喜措く能はざるものあるに非ずや。

戰爭と風紀の紊亂

戰爭が人を殺すものなる事は疑なき事實也。此の平時に於ける最大罪惡が却つて最大功名となる戰時に於ては、平時の秩序の破壞せられ、あらゆる醜態を暴露するは數の免れざる所ならん。而も吾人の一言を禁ずる能はざるは、男女間の關係の之れによつて壞敗せらるるの甚しき一事とす。出征の兵士は必ず飽迄情慾を貪りたる後征途に上るを常とし、爲めに廣島佐世保の如き地に於て公私娼の暴增を來し、風紀忽ち懷亂して花柳病の蔓延となり私生児の激增となれること遺憾千萬なるが、日本の軍隊は未だ節制ある方にて、歐羅巴に於ては一層醜穢なるものある由なるは、人類の爲めには深く悲しむ可きも日本の爲めには意を强うするに足るに似たり。

然れ共日本の如く醜業婦に後援せらるゝ軍隊は果して外國にありや、青島攻圍中藝娼妓は何れも奮つて慰問袋を送り、中には香水を振り灑ぎて送りたるもありし由也。昔者菅公恩賜の御衣を捧持して毎日餘香を拜したりと聞く、今は藝妓の移り香に鼻をうごめかす軍人もあるにや。一人の之を恥辱として賣淫婦の贈物を斥けたる者あるを聞かず、悲しい哉

負傷せる山田大校と伊藤大尉（川崎にて）

新しがる女に

新らしがる女よ、御身等は女たる前に先づ人間として生きざる可からずといふ。其言や可矣。されど御身等を男子の從屬とし性慾の對象視する思想は、何處より流れ來るかを考察したる事ありや、其根底に向つて斧鉞を揮はんと思慮したる事ありや。

現代の社會に於て公娼制度程婦人を侮辱する思想の大膽なる表現は非ず、御身等が若し婦人問題の第一義として玆に眼を注ぐ事なくんば、何の自覺か之れあらん。アブサントの香りに陶然たる處に果して何の新しき意義ありや。（江册）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

再び悲壯なる人道戰

△川崎遊廓の大暴行

伊藤江南

洲崎遊廓事件ありて半歳を出でざる去月十三日、而も本誌發行所たる神奈川縣川崎町に於て救世軍大校山田彌十郎、大尉伊藤富士雄の二氏が、遊廓側の使嗾により兇徒の襲ふ處となつて重傷を負はれたるは、眞に昭代の恨事にして、公娼制度の罪惡を感ずる事一層痛切なるものがある。吾人は茲に其顛末を縷述して敢て世の反省を促さんと欲す。

□悲壯極まる人道戰の顛末

事件の起りは同地貸座敷金淸樓加藤林造方の娼妓、半太夫信夫の二名が廢業の助力を救世軍に求めたるにあるが、既に十二月中川崎警察は伊藤大尉が廢業の助力に行きたる際遊廓側の利益を圖りたる事あるより、山田氏は伊藤氏を助けんが爲めに兩人にて出張する事となり、十三日同樓に娼妓へ面會を求めた。然るに樓主は娼妓取締の規則を無視して面會を拒み遂に三業組合事務所に於て、漸く本人達に逢ふ事となつた、其間に樓主連が娼妓達を嚇したり賺したりしたのは勿論であるが二人は廢業の意志が强固であつたから、とう〳〵警察に同道する迄の運びとなつた。處が遊廓側では車に乘つて行つて呉れの、穩かでないから警察迄は別々に歩いて行つて呉れのと態と時間を手間取らせ、黄昏近く伊藤大尉は一足先に二娼妓を伴れて廓を出た。數分ならずして山田大校が大門を出ると光景物々しく、それと悟つた大校は三人の身上を案じて駈け出すと、忽ち暴漢の包圍する處となり、其處に打ち倒されて了つた。暫くして我に返つて見ると其時は既に暴漢は去つて野次馬が取り卷いてゐる、見れば其處は理髪店の前であつたから、匍匐して休息を求めたが『客商賣だから』とて入れない、據なく水を求めて僅に力をつけ、辛うじて附近の山田醫院に治療を乞ふた。然るに奇怪にも始め主人は在宅と明答し乍ら再び奥より來つた時は不在であると留守をつかうのである、さらば他の醫師を呼んで呉れといふと、それもならぬといふ、東京へ電話をかけ度しと賴めば、電話には故障があるといふ無情極まる態度に驚いてゐる處へ漸く警部補が來て、既に先に伊藤大尉が收容されてゐる高塚病院に、入院さして呉れた聞けば伊藤氏は門を出るとすぐ暴漢に亂打され娼妓は取返されたる上、民家に駈込めば足を以て戸外に引摺り出され、氣絶するに及んで暴漢は雲を霞と逃げ去つたといふ事である。山田氏は三週間、伊藤氏は四週間全治迄に入院治療を要するといふ診斷である。

□警察署の怠慢と不法と

暴行の準備が整へられてから暴行の終る迄には可なりの時間があつた。此間狹い土地でこれ丈の大事件を知らずにゐたといふ警察の不活潑は、それ丈でも遺憾に堪へない處であるのに、奇怪の幕は實に山田氏入院後の折衝から切つて落されるのである。其夜病院に樣子を見に來た遠藤警部補なる者に

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

山田氏は、遊廓の爲めに强て暴行を加へてまで伴れ戻されたる二娼妓は、今其意志又は身體に對して非常なる壓迫の加へられつゝあるべきは火を見るよりも明である、彼等を呼び出すか、或は負傷の病軀を提げて先方に談じつく可ければ保護を附けられたし』と、望みたるに、彼はどちらも拒んで容れなかつた。止むなく署長に面會を求めたれども故意か偶然か遭難の當夜は勿論、翌十四日も言を左右に託して面會するを避けた。翌々十五日正午頃に至つて始めて面會する事が出來た。そこで大校は二娼妓の成行を糾したるに、署長は

「昨日午後二時頃呼び出して取調べたるに、「牛太夫」は熟考の結果廢業を思ひ止まり「信夫」の方は保證人と打合せの必要ある故、二週間の外泊願を出して横濱に行きたり。昨日警部補をして取調べしめたるに、樓主側の者が廢業を妨害したる等の事實なし」

といふ。其に對し山田大校は

(イ)妨害の事實なしといはるれど、廢業の意志にて救世軍士官に伴はれ、警察署に出頭する途中、士官は斯の如き暴行を蒙りたる事と、又今承はる如き結果に至りたる事とを思ひ合すれば、彼等が廢業を妨害せられたる事實は十分なるに非ずや。

(ロ)娼妓が士官に伴れて警察署に出頭する途中、彼が如き暴行に遭ひたるに對し、警察が其日の午後五時より翌日の午後二時迄廿餘時間、彼等を棄て置きて顧みざりしは不行屆に非ざるか。

(ハ)此事の落着もせざるに一人の娼妓には外泊を許して其地を去らしめたるは不注意に非ざるか。

との三箇條を注意し署長は唯『余は上官に對して責任を負ふのみ、人民に對しては辯解するの責任を有する者に非ず』とのみ答へて其他をいはず、由つて山田大校は『然らば此れより行きて廢業の意志を飜したりといはるゝ牛太夫を訪ふべければ保護を加へられたしと求めしに、乃ち一巡査を附せらるゝことゝなつた。

山田大校が金清樓に着したのは、正午過ぎであつたが、樓主夫婦と語る間に、忽ち藤田コマ(假の名)なる娼妓慌しく入來り、

「旦那私を連れて行つて廢業させて下さい、是非連れて行つて廢業させて下され」といふ。但し未だ牛太夫のことを聞質さぬ前故、「後で話をすべければ少しそちらで待て」といふ。「否々此處に居ます。向に行けば亦牛太夫さんの樣にぶたれますから」といふ。軈て牛太夫入り來り「其節は途上に突倒され、氣が遠くなつた處を連れ歸られましたが後に迷惑が懸ると思ひ、今度は廢業を思ひ止りました」とのこと。卽ち兩士官が傷害を受けつゝある間に、娼妓が途上に突倒され、氣が遠くなりし處を携へ歸られ、其上前記の一娼妓がいふ如く毆打して壓迫を加へられたのである。而も署長は尙「壓迫の事實なし」といふ之は不詮索か、然らば怠慢曠職の責を如何、吾人はしかく當局の愚昧なるべきを信ずる能はず、さらば故らに理由ありて、樓主を庇護し、强て娼妓が廢業の意志を屈せしめたのであらうか。

牛太夫との會見終りて後、山田大校は別室に待たせ置きたる前の一娼妓に面會を求めたるに、樓主は頑として應ぜず、暫く談判を重ねたが結局要領を得ぬ故、止むなく歸つて再び鈴木署長に面會し、此事實を告げて相當の處置を爲さんを求め、翌十六日署長に面會し前の娼妓の事は如何になりしかを問へるに對し、署長は「また其儘なり」と答へた

此に於て重々の不法なる警察の取扱振が委細に報告せらるゝや書記長官山室大佐は詳細の事實を携へて去十八日親しく神奈川縣廳に出頭、知事に面會して細さに陳述せらる處ゝがあつた。本件の結果が如何になり行くか、吾人の活動は滿を持して未だ放たず。巫山の雲雨春風となるか雷霆となるかは乞ふ次號を待て。

選擧道德論

聯濟會顧問　伯爵　大隈重信

□王政維新の根本精神

一度び世界的文明に觸れてより我日本帝國には千古未曾有の大變化を起し、七百年來の幕政は廢せられて王政維新と相成つた。而して王政維新は實に西洋文明を取つて之を日本に同化せんとするの動機即ち憲法的意識を茲に生じて五個條の御誓文となつて現はれた。即ち『廣く會議を起し、萬機公論に決すべし』『上下心を一にして盛んに經綸を行ふべし』との文字に明かなるが如く、政治は凡て輿論に從つて、萬民と共にせなければならぬといふのが王政維新の根本精神であつた。

□國民の自覺と憲法の發布

封建政治は、國民の此の自覺と兩立する能はずして破れてしまつたが、其の跡に尙ほ寡頭政治を現出した。即ち一二の雄藩が幕府に代りて勢力を專らにするに至つた、けれども之は明かに王政維新の根本精神に背くものであるから、國民が其の排斥に勉むるに至つたのは當然である。即ち民選議院の建白となり、國民的大運動となり、遂に國會期成同盟會となりて、其の聲は畏くも帝室にまで反響して、明治二十三年を期して、帝國議會を開くといふ詔勅が降り、軈て、之れが實現して明治二十三年に至り、千古不磨の大典たる、帝國憲法は發布されたのである。こは固より、先帝の宸慮に倚れる事は申す迄もなけれど、一面又國民が寡頭政治を不可とし、各自政治に與かるの權利を要求したるためであつて、國民の心を心として立たせ給ふ英明なる先帝が之を叡はしたる結果、即ち之を斷行し給ふたのである。

□憲政の大義を體得せよ

議會が開設となつた以上は、最早寡頭政治は許されない。議會は輿論を代表すべき所であるから、藩閥の勢力は最早之に反抗は出來ない筈である。實際、藩閥の勢力はだん／＼弱くなりつゝある、在るものは只惰力的に殘存するに過ぎぬ。而して、此の藩閥にして彌跡を絕てば、之に代るべきものは當然國民自身であるべきに、事實は然らずして、朋黨であつた。藩閥政治衰へ、朋黨政治之に代る。此の如きは抑も明治大帝が憲政の基を開き給ふた大御心に背くものであるのみか國民が、曩に要求したる憲政の大義を忘却したるものである。併し乍ら我國民は決して暗愚なる國民ではない。今や時は來

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

りて、此朋黨——私のために國家を孤柱とする所の朋黨、私利をのみ之れ慮りて、他を顧みざる朋黨、群小跋扈して國政を亂る處の朋黨に對する國民憤怒の心は燃へて、黨弊打破の聲は天下を蔽ひ、今や其勢は正に枯野を燒くが如き狀勢となつて來た。斯の如くにして將に大正維新は實現せんとしつゝあるのである。而して我輩は、此際に切に聰明なる我帝國の國民が、須らく憲政の大義を體得して、其與へられたる尊き參政の權利を神聖に使用し、以て大正維新の大理想を實現せんことを希望してやまぬものである。

□忠君愛國の新意義

若し夫れ、此大正維新にして成る能はざらんか、卽ち我國民は憲法政治に堪へ得ざるものたることを表白するものである。思ふに、我國民は既に四十年前に於て切に憲法を要求し、明治廿二年に於て正に之を得たのであるが、併し、憲法それ自らは何等の效果をも生せぬ。卽ち之をして效果あらしむるものは、一に之を運用する國民の政治的能力と其道德とに倚るのである。

今日國民として道德の重んずべきは言ふ迄もない。而して我國民道德の根本道德は忠君愛國にある。借問す、忠君愛國とは抑も何ぞ『一旦緩急ある時、義勇公に奉じて、以て天壤無窮の皇運を扶翼すること』、素より忠君愛國である。併し乍ら憲政治下に於ける忠君愛國は、單にそればかりではない。我輩をして切言せしむれば、勅語に所謂『國憲を重んじ、國法に遵ふ』こと、之れ最も大なる忠君愛國である。國憲とは國の憲法である。國法とは國の法律である。卽ち日本帝國の臣民としては常に憲法を重んじ、法律に遵はなくてはならぬ。而して、斯くするは取りも直さず忠君愛國であると同時に之に背くは卽ち、不忠君であり、非愛國である。

□憲政國民の最大義務

帝國憲法は實に神聖なるもので、日本帝國の眞髓である。畏くも先帝陛下が群僚百官を率ゐ、皇祖皇宗の神靈に誓はせられて、發布し給ふたる、其憲法を遵奉するは之れ卽ち陛下への忠義、又國を愛する所以でなくして何ぞや。是れ我輩が機會ある每に常に說き來れる所で、特に拙著國民讀本、國民小讀本に於て此大義を詳かに闡明して置いた處である。

要するに憲法に對して忠義なるは、是れ軈て我國家に忠義なる所以であり、又從つて我國家を興隆せしむる所以の道である。之の大義を忘れ此の忠義を怠る時は寡頭政治となり、群小政治となり、一步を誤れば此世界的大動亂の間に處して實に國運を危くせずとも限らない。今は實に國民の自省自覺を要する、國家にとりての最大の時機である。

憲法は吾人國民に參政權を與へて居る。而して其參政權は其與へられたる選擧權を行使するに於て實現される。既に選擧は憲政國民に取りては各自の權利である、と同時に又義務である。徵兵の義務、納稅の義務と並び立つべき義務である。然るに徵兵の義務を怠り、納稅の義務を怠れば、直ちに法律

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

上の制裁を受けねばならぬのに、獨り此選擧の義務を怠るも何等の責めらるゝ所がないために、往々にして國民の怠る所となる。併し、是は決して前二者に譲らざる國民最大の義務である事を忘れてはならない。憲法發布の勅語にも

「朕我臣民は卽ち祖宗の忠良なる臣民の子孫たる事を回想し、其朕が意を奉體し、朕が事を奬順し、相與に和衷協同し、益々帝國の光榮を中外に宣揚し、祖宗の遺業を永久に鞏固ならしむるの希望を同じくし、此負擔を分つに堪ふることを疑はざるなり」

と仰せられて居る。然るに國民にして、到底陛下と共に和衷協同、以て國家の負擔に堪ふる能はざらんか、之れ實に、畏れ多き事共であつて、此上もなき不忠であると謂はねばならぬ。されば今日の國民は昔とは違ひ、十分に政治を理解し、憲法に由つて與へられたる參政權を適當に行使せなければならぬ。而して、選擧權は最も神聖なるものとして、尊重し、假令一票たりとも、之を放棄したり、又は利のために迷ふて之を金錢や、物品に交ふるといふが如きは、之れ實に大不忠にして我忠良なる國民として有るべからざる事である。

□神聖なる此一票を尊重せよ

世には商業道德が腐敗したといふけれども、政治道德はそれにも增して敗廢して居る。是迄政界の弊をいふもの多く、藩閥の跋扈、官僚の跳梁をいふを常として來たが、今日の朋黨の弊は實に藩閥及び官僚の弊にも過ぎて居る。如何にして此弊害を掃蕩すべきか、之最も必要にして緊急の問題である抑も議會は重大なる權力を握つて居る、卽ち立法權を握つて居る。尤も議會の權能は絕對の權能ではない。蓋し立憲君主政體に於ては、其法律は、是非とも主權者の御裁可を仰いで然る後に發布し、其處に始めて、法律たるの效力を生ずるものではあるが、又それと同時に一面に於ては是非とも議會の協贊を經ねばならぬ事になつて居る。財政の事、軍事上の事、事細大となく苟くも國家の事業に屬するものならば、飽迄議會の協贊を經ねばならぬ。而して此權力は實に吾人が憲法に由つて與へられ居る所のものであつて、議會の此權力は卽ち國民の權力である。何となれば、其議員は吾人の代表者として吾人が選んだものであるからである。議員は選擧せられずして國政に與ることは出來ないが其議員を選擧するのは吾人國民の權利である。玆に於てか選擧のことは最も愼まねばならぬ。各自の有する一票は各自の自由の權利に屬して居るものである、換言すれば自由の神は此一票に宿つて居るのであると、同時に又此權利を行ふは、前に云ふ如く、國民の義務である、此義務を行ふは國民の國家に對する道德である故に道德の進步したる國民にして始めて能く憲政の運用が出來るのである。然るに我國は憲政を實施して以來、既に二十六年の星霜を經過せるに拘らず、其運用がまだ十分に出來ないのは、つまり我國民の政治道德の極めて低いことを證するもので、憲政國民としてまことに遺憾千萬といはねばならぬ。且つ政黨は一時誤れる思想に捕へられ、少數の權力者と結合して其爲め國民の國家に對する義務の念を消磨し去つた政黨者は一個の私福を營まんが爲めに官憲と結託して國民の耳目を蔽ひ、却て國政を紊亂して顧ない。而かも頽俗のはかなさ、國民は見て以て怪ます、斯る、民を欺く的政略に巧な

るを以て政治家と認め、斯の如きものを政治的に力ある人と誤解するに至つた。茲に於てか、淺薄なる又野卑なる行爲は増長し、議員の瀆職となり、官吏の犯罪となり、其害毒は更に流れ〳〵て道德的に廣く國民に迄及んだ。警察が一方に於て社會の風紀の頽敗に防ぐべく努めつゝあるに拘らず、他の一方に於ては、權力者と群少と、互に因緣黨附して種々の姦惡を行ひ、甚しきは、一國の政を公の場所に於て議せずして、柳暗紅燈の不潔なる場所に於て之を議するに至る。その墮落まことに痛嘆の至に堪へない。

けれども、勢は極まれば必ず變ず、此度の大戰亂は好機となつて、國民は茲に覺醒し多年の眠より醒めて一大飛躍を試み其弊風を掃蕩して憲政上に大淸潔法を行はんとしつゝある。たとへ積弊は一朝にして除き得ずとするも我輩は今や漸く其方向に進みつゝある傾向を觀取して誠に喜に堪へない。

□憲政の革新と國民の責任

二月六日博士マシウス氏は演說して、公正なる輿論は智識ある階級に起ると言はれたが、是は甚だ穩當なる議論である。智識ある階級は常に輿論を指導せなければならぬ、輿論を尊ぶ可しと言ふが、此尊ぶ可き輿論は何としても智識ある階級に指導された論でなければならぬ。然るに濁流滔々として漲り、民風が卑俗に陷ると、往々智識ある階級にして高潔の志あるものは、此濁流を厭ひ卑俗を避け、自ら世外に超然たるの傾が有る、是も亦大なる弊である。此の如きは餘りに個人的である。餘りに非國家的である。畢竟頽風汚俗の今日あり群小政治の今日あるは、此智識ある階級の政治に冷淡なるが爲である。學者も宗教家も實業家も等しく國民である以上は一人として政治的に統率されざる者が有らうか。然らば政治が紊亂して社會が腐敗すれば等しく其弊を受けなければならぬ既に遁れんと欲して遁れ能はざるが此世である。然らば奮發霞食自ら高しとするは實は誤れるの甚しき者で決して自ら遁避する事なく、進んで頽俗の匡救を勉めなくてはいかぬ。

如何に國民が一時憲政の本義を忘れ、自己の與へられたる選擧權を適法に行使する事を怠ればとて、智識ある階級が不斷に其誤謬を指摘し其怠慢を鞭撻せば、國民の自覺は次第に開くるに相違なく、而して四年每に一び來る改選に由つて議員は新陳代謝し、漸を逐うて議會も改善されるであらう。勿論從來の黨派は漸然無くなるに至らぬであらうが、殘存するも亦妨げぬ。人は昔の人作ら其精神は此權威ある國民の監視によつて次第に改善され、從來の朋黨者流も自ら過去の過を悟つて實質を一變するであらう。即ち健全なる輿論の間に行はれる選擧に因つて、議員の思想も亦一變するのである。我輩は此度の選擧に於て斯かる自覺せる輿論を見んと欲する。

智識ある階級が社會は斯の如きものなりと斷念し了つた喩が此怠慢に陷つたので、國家に取つて是程恐るべきことは無い。世を擧つて此の如くならば如何なる文明も如何なる智識も將た如何なる道德も、直に取つて我に同化せんとする努力が何處から生ずるか。明治維新は泰西最新の文明を取入れて我と同化せしめんとする果敢なる精神に導かれたものである。我輩は國民が今日の外交上の時局と朋黨の流弊とに對して必ず昔日國難に臨んで現はした大勇氣を茲に振ひ起すを疑はぬ、而して後我憲政有終の美は初めて顯はるべきである。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

現代日本婦人の使命

廓清會理事　益富政助

□英國婦人運動の眞相をさぐれ

英國で最も大なる婦人の問題は何かといふに、參政權運動である。男女性を異にしてゐるから、日本の男子に此問題が理解されないのは強ち無理からぬ點もあらうけれど、同じ性を有し乍ら日本の婦人に、これ等英國婦人の參政權運動が更に理解されて居らぬ。そして政治運動といへば所謂政治屋の醜運動計り見て居るので、やはりさうしたものかと輕蔑して姫御前のあられもないと慨く者さへある。併し乍ら私は今少し同情を以てあの人達の行す處を見たいと思ふ。

英國婦人の參政權運動には種々の理由があるが先づ是非とも認めてやらねばならぬ事は彼の人達が自分自身の爲めにして居るのではない事である。卽ち彼等は只英國に於ける女性全體の爲めに決死の覺悟を以て奮闘しつゝあるのである。彼の人達の運動は名の爲めではない、興味の爲ではない、必要に迫まられて全く眞劍にやつて居る。其一つの理由を擧ぐれば、婦人は男子と同一の技術と分量との仕事をなしても、其の得る處に差別がある。同じ力量であつても男は五十圓で女は三十圓と云つた樣な報酬になつてゐるといふのが現社會の狀態である。何故、女だからといふ丈で同一の賃金を受取る權利がないか。畢竟男子の作つた法律制度であり、男子の定める政治であるからだ。之を根本的に解決するには婦人も國家の政治に參與する權利を得るより外はない、といふ尤もな主張である。殊に米國や濠洲では既に選擧權を與へてゐる、いや既に被選擧權すら持つてゐる處がある。而して其經驗によると、女が政治に參與するやうになつてから、家庭の事であるとか育兒上の事であるとか、老幼の保護であるとか、感化救濟の事であるとか、衞生の上に於てとか、殊に風俗の方面に於て非常なる改良進歩が出來て、從來男子の氣付かなかつた處に女子の努力が着々現はれつゝある。斯樣な實驗の上からも、私共は英國の婦人達に同情と尊敬とを拂ふに躊躇しない者である。或は運動の方法に就て非難される方がある。併し乍ら彼の人達は既に百方手段を講じた果ての最後の行き方である。男子閥が、其穩健な幾多の方法で、門戸を開いて呉れなかつた爲めに招いた當然の破壞である。戰爭は罪惡であるといふ、而して男子は今や空前の大戰闘をして居る。何故に腕力は最後の解決の手段たる事を男子はゆるして居る。女だからといふ以外女子にのみ最後の手段が不法であるか。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

には何の理由もない。之は餘りに我儘な議論である。

而して我等が注意を要する點、たとひ遣り方に間違があるにしても『一通りや二通りの決心では到底出來ない遣り方である』といふ處に眼をつけなければならぬと思ふ。牢屋に入れらるれば不食同盟をする。硝子窓を破壞する、公園を荒す名書を裂く、亂暴到らざるなき所業と世人は直に擯斥したがるが、あゝいふ所業は如何なる覺悟と決心があつて出來るかといふ事を考へなければならぬ。彼等は卽ち生命を捧げて居る。英國の姉妹達の爲めと命を棄てゝゐる。……亂暴といふ其裡に、彼女達は實に命を同性の爲に捧てゐるのである。

□日本には婦人問題なきか

私は日本の婦人方の間、殊に基督の敎へを知る諸姉だけでも此れを理解して頂きたい。そして私達は同盟國の婦人達の其悲壯なる奮鬪振りに激勵せらるゝ處がなくてはならぬ。其運動の方法手段は異にするにせよ、日本將來の婦人の爲め、現在の日本の同性の爲めに、日本には命を捧げて働く可き程の問題がないであらうか。私は其事を語らなければならぬ。日本婦人の選擧運動、それも可からう。乍併英國の婦人や米國の婦人達のそれよりも、もつと〳〵日本には婦人として到底凝乎として居られない程の問題があるではないか。甚だ失禮な申方ではあるが、極端に申せば日本には婦人といふ人といふ言葉を以て表はすべき者はない。女ではあらうが人ではない。といふのは支那の漢楚軍談や呉越軍談の類を讀むと、群雄が割據して互に勢力を爭ふ間に、金銀財寶を贈賄して歡心を求めるといふ事がある。けれどそれで敵の歡心を買ふに足らない場合は、女がいつも贈られてゐる。『財寶と美人』これは卽ち贈賄の必需品であつた。美人といふものは金銀と同じやうに取扱はれる。此等の思想は日本に於ても亦然うである。啻に過去に於て然樣であるのみならず、現在に於ても『酒と女』は附き物で、共に男子の快樂の對象品として扱はれ考へられてゐる。日本人の婦人觀は如斯ものである。

私は今日本には婦人といふ人はないと云つた。敢て私は奇矯な言を弄するのではない。玆に最も明白に女が人でなくて物品として扱はれてゐる證據を擧げやうか。卽ち、日本には金錢を以て買はれたる五萬の婦人が、監獄の惡人原よりも甚しい慘澹たる目に逢つてゐる。日本の婦人は公娼制度てふ名の下に現に金錢を以て物品を賣買するが如く賣買されてゐる。諸姉は此狀態を何と觀るのであるか、之れ五萬の娼妓の問題ではない、實に我國女性の一大問題でない乎。それが命を捧げて働くに足らぬ問題であるとするか。婦人とは男子の玩弄物なりとする思想、否女は、人にはあらで物なりといふ思想の養成所が國家絕大の力によつて保護されてゐる、それが婦人全體の侮辱でないとするか。日本婦人は國家から人格扱を受けてゐない。淺ましき淫行の器として同性の扱はるゝ事が、堪難き恥辱でないとするか。之は婦人參政權の問題どころではないのである。

□純潔の思想より眞の貞操を生め

『貞操』の問題に就ても、極端に云ふならば日本には貞操道德はない。斯様に申したならば、言下に諸姉は之を否み、日本婦人は最も嚴重に貞操を守り來つたと仰せらるゝであらう。さなりそれも事實である。併し乍ら日本に貞操道德なしといふ事も遺憾ながら事實である。

昔岡山藩では藩中に不義をした妻があると、夫は刀を拔いて其妻の首を斬つた、そして死體は蓆に包んで裏門から擔ぎ出して親類縁者に引渡した。しかも之は當時に於ては甚だ寛大な處置として親戚縁者は御禮を云なくてはならなかつた程日本婦人は嚴重な貞操を強いられて居つた。遠い昔話のみでなく現に先日も惡漢に船中で辱しめられた爲め、夫に合はす顏がないといふので水中に投じて果てた婦人があつた。日本婦人の貞操は斯様に尊い、加ふるに日本の法律は婦人の姦通を嚴罰に處してゐる、斯様に法律習慣何れの方面からも日本の婦人は世界に稀な程貞潔であつたかのやうである。

然るに翻つて公娼制度を見るならば、婦人の貞操は金錢のため自由に賣買され、バザーのやうに正札附で陳列されてゐる。國家が公に貞操の賣品たることを認めてゐる。

先日或る婦人が『夫の方が惡くつて子供が出來ない、他の男の種を宿して子を得たいが不道德なものか』と尋ねた。如何にも途方もない質問のやうである。けれども地を變へてこれが男の質問としたらどうであらう、『どうも女房が惡くつて後繼ぎが出來なくて困る』と云へば『それぢや君「妾」を置いたら』と勸めてゐるのが現狀ではないか。女性に對して途方もない事であるならば男性に對しても途方もない事である筈だ。けれども日本ではさうでない。又日本では妻が姦通した時に嚴罰に處せらるゝのに、夫が犯した時は無罪である。

日本婦人の貞操は世界稀也となす諸姉よ、もつと奧深く眞面目に胸に手を置いて考へて御覽なさらねばならぬ。

抑も日本の貞操道德といふものは『純潔』の思想より來つたものではない。之は寧ろ貞操といふよりか、奴隸道德といふ方が適切であらうと思はれる。夫に嫁げば夫の所有で最早己れはない。夫は妻を己れの金と同様に己れの妻と考へてゐる。だから己れの金に手をかける者を不都合とするが如く、己れの妻に手をかける者は不埒だといふのだ。男のための貞操で、女のための貞操ではない。『純潔』が根底をなしてゐる貞操ではない。故に貞操の如く見えるものは、實は奴隸の道德である。女は男子の從僕であつて、其主人に仕ふる道それ貞操と名づくる道德である。從僕の『貞操』が純潔の思想を根底としてゐない事は、試みに字引を引いても分る。即ち貞操とは女が言ひ交はした男のために行を正しくし、其志をかへぬこと（芳賀博士辭典）とあつて婦人の爲めの貞操道德でない男子が占有慾から來る婦人に課した奴隸道德である。イプセンのノラは人形の如く愛せらるゝのを怒り、人として生きなくてはならぬといふのが其自覺であつた。人形の如くにても扱はるれば未だしも、其人格は物品視され、其道德は奴隸道だといふ。それでも尚、深き眠りより醒めやうともしない日本婦人の狀態は何といふ氣の毒なことであらう。

私は一部少數の自覺ある婦人方に、日本の婦人問題解決の爲めに、英國の婦人以上に奮起せられん事を熱望する。

娼婦公認制度の誤謬（一）

東京帝國大學教授
法學博士　上杉愼吉

□二重道德の標準

婦人の榮位を蹂躪し、其の天性の資質を蔑視して、人を見る物貨の如くなる、社會の病的現象の、最も著しきは、娼婦の存在なり。娼婦の如く、人道の觀念に反し、人類の地位を汚下するはあらず。而して、古來今に至るまで、又東西何れの國に於ても、娼婦の絕ゆることなく、益々盛なるに至るは如何なる故ぞや。娼婦は、恰も人類と共に離るべからざる現象にして、文明と共に益々發達するに似たり。ベエベルが、『婚姻は性交の一面を成し、娼婦は他面を成せり、婚姻は貨幣の表面にして、娼婦は其背面なり』と云へるは、誠に事實にして何人も之れを否定すること能はず、婚姻の純粹を論ずれば、次には娼婦に及ばざるべからざるは、悲しむべきの至りなりと云ふ可し。娼婦存在の原因は、經濟的窮迫の狀況と男子の強烈なる性慾に在りと雖も、要するに、婦人の價値を認めず、其の人格を無視するに在り。されば、覺醒したる婦人が、盛んに娼婦の絕滅を呼號するは、誠に當然なりと云ふべし。其の稱首を、英吉利人ジョセフイン、バットラア夫人と爲す。有名なる、國際廢娼同盟の創立者なり。國際廢娼同盟は、屢々各地に大會を開き、講演に、決議に、其の高尙なる廢娼の主旨を傳播せり。予は此の同盟の前途の光明を、祝福せざるべからざるなり。

エルスペート、クルウケンベルグが、娼婦問題に就いて述ぶる所は、覺醒したる中正の市民の妻の、穩健なる心情を代表するものと見る可し。其の大意に曰く、此の關係に於けるが如く、男子の感情の、女子の感情に比して、異れる場合はあらず。我々婦人は、從來の如く、最早や家庭の外に行はるる事柄は、關する所に非ずとして顧みざること能はず。我々は、女子の幸福と健康とは男子が婚姻を持ち來す所の健康と精力に依りて、定まるを知る。又婦人の尊敬と、地位と、家庭の內外に於ける勢力、及び子女に對する感化は、男子の一般に婦人に對する尊重の心の厚きと、否とに依りて異るを知る。又婦人の一部が、娼婦たるも、良家の婦人は關するなしとするを得ず。婦人は全體として、人類の榮位を破壞する、不道德なる狀態の害を受くべきものなるを知る。一たび墮落したる少女を、再び救ひ出し、男子の不品行なる習慣を矯正するは、殆んど不可能なり。若し同胞の婦人の數千萬人が、賣買し得べき貨物にして、金錢の支拂に依りて、何時にても

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一時男子の使用に供せらるゝものたる間は、一般に婦人に對する尊敬は、低からざるを得ず。況んや、かゝる賣買を、國法を以て止むを得ずと宣言し、國家は男子の爲めに之れを保護し、かゝる賣買は二人の合意に成るにも拘らず、凡て責を婦人に嫁して、男子の罪を問はず、男子の不品行は國民を毒するも、婦人の德性を破るの要求は、常に男子の側より起るも、之れを顧ざるは、益々婦人の榮位を、墜下せしむるものなり。神聖純粹なる愛情の觀念はかくの如き一時的の、唯だ肉慾を滿たすが爲めにせらるゝ、最も野性的なる、兩性の交通に依りて、阻却せられ、傷害せらる。男女の道德的生活に關する、二重の道德は、婚姻の統一と、純粹を破滅するものなり。何を二重の道德の標準と云ふか。男子は皆娼婦の間より來りて結婚し、而して、女子に對しては、純潔無垢ならんことを期待す。女子は、如何に熱烈なる慾情を有するも、己に克ちて之れを抑制せざるべからず。然らざれば、世人之れを擯斥して顧ず。而して、男子は、自ら稱して强しと云ふも此くの如き克己を爲し遂ぐることを得ず。情の向ふ所に從て快樂の慾を滿たし、却て憐れむべき婦人を輕んぜんとす。而してクルウケンベルグは、嘲笑的口調を爲して曰く『予は他の非を指摘して、難きを責めんとする者に非ず。予は已を克制するの、男子に取りて如何に困難なるかを知る。然れども予は又一婦人として、多くの婦人に取りても如何ばかり、止むを得ざる制慾心の難きかを知る。而かも、我々婦人は熱血なる情感に反抗する戰鬪を爲すも、之れを自負することなく寧ろ之れを當然なりと心得、假令、獨逸に於て、成熟して婚せざる、五百萬の婦人を算するも、男子の如く制慾は不能なり、國家よ、危險なき、拘束なき、性交を保證せよと、呼はんとも思はざるなり』と

□男子に情慾濫行の特權ありや

然れども、娼婦の存在を見て、良心の羞耻を感じ、自ら、人たるの靈位を、汚下せられたるを覺えざるものは、一人とてもあらざるべし。而かも娼婦を以て、必要なる社會制度と見るの、一般の見解に屬するは、甚だ不思議なる現象なりと云はざるべからず。種々の理屈を捏ねて、娼婦の存在を正當視せんとする者多きは、如何なる故ぞ。歐羅巴に於ては、希臘羅馬の古より、中世耶蘇教の盛時に於ても、常に娼婦を止むを得ずとして認めたり。故に『歷史派』は、凡そ『在る物は正し』とす。彼れ等は恐らくは、盜賊は古來絕えざるが故に、正當なりとし、頓才あるルソウの云へるが如く、病氣は常に存在するが故に、正當なりとするならん。『娼婦は唯だ世界の滅亡するに至りて、地球上より消滅するならん』と云へるは、最も確的なる斷定なりとせらる。果して然らんには人類は禽獸と異ることなし。否、禽獸にも劣れりと云はざるべからず、己に克つことを得る、健剛倔强の男子は、之れを吾人の理想と爲すことを得ざるや。從來絕えたることなし、故に將來も絕ゆることなしと云ふは、誠に人類の理性を無視したる、大膽なる放言にして、彼れ等は、或は自ら進化論の

理說を基礎とすると爲さんも、進化論なるものは、素より人類を禽獸と同一視する暴說にして、其の世道人心を害ふ、舉げて云ふべからざるなり。彼の科學的正確を標榜し、實際的なるを誇稱して、娼婦を辯護し、遂に『娼婦は止むを得ざるの必要なり。其の存在は正當にして、國家より保護せられ、罰せられざる權利を有す』と云ふに至ては、其の淺見や笑ふべく、其の不謹愼や惡むに堪へたり。人性を無視して、何の科學的と云ひ、實際的と云ふものあることを得べけん。

又、娼婦の存在を以て、良家の婦人を保護するが爲に、必要なりとするは、頗る多數の實際家、即ち醫家、警察官等の主張する所なり。其の意たる、若し娼婦なければ、男子は他人の妻、又は良家の少女を干さんと試むるなるべく、姦通私通盛んに行はるゝに至らん。娼婦の存在するに至り、婦人の貞操は、辛うじて危からざるを得と爲すに在り、之れ、男子は不品行なることを得る特權あることを前提とする說なり。男子の不品行にして、情慾を濫行するは、之れを認めざるべからざるが故に、婦人を驅りて、貞操を賣却せしむべしと云ふは、不可思議千萬なる理論と云はざるべからず。或は十分の財產收入なき者が結婚して、養ふこと能はざる妻子を有するに至るは、避くべからざることなるが故に、娼婦は有用なる社會制度なりと云ふ者あり。皆男子を以て初より情慾濫行の權利ありと爲し、婦人を汚下して、其の用に當てんとするもの、素より人道の容るゝ所に非るなり。

されば、予は婦人論者の主張に對しては、殆んど常に、直ちに贊成することを躊躇し、其の中庸に非るを見て、之れを控へ目にすべしと爲すと雖も、廢娼の主張に至りては、悉く其の說に同意せずんばあらざるなり。予は深く國際廢娼同盟の運動を多とし、之れに加はれる、高尙純潔なる心術を有する婦人に同情す。公娼なるものは、國家が男子の不品行を公認し、保護するなり。而して、之れが爲めに、等しく人類たる、婦人の人格、本性を荒暴して顧みず。人生社會には人道の感覺を害ひ、見て人類文明の敵と爲すべき、事柄も、頗る多し。然れども、娼婦の取扱に至て、其の極まれるを見る。而も、世情を解すると號する者皆曰く『娼婦は文明に伴ふ』と。予は寧ろ、文明の意義を疑はざるを得ず。

□婦人の堪ふ可からざる國家の態度

道德と法律との矛盾は、正常なる狀態に非ず。而して、其の最も露骨なるを、娼婦に於て見る。如何なる宗教も、如何なる道德も、娼婦を以て、罪惡なりとせざるはなし。而して法律は之れを社會の必要なりと爲し、之れを公認保護せり。之れのみに非らず、法律自ら、一方には刑法に於て、金錢を得て淫を賣るを罰す。而して、他方には之を保護し、公の帳簿を具へ、營造物を設く。世に之より立派なる矛盾あり得るや。刑法上の犯罪行爲たる淫賣を營業とする者に租稅を科するは盜賊を公許して、其贓金の割り前を取るが如し、之れ、文明國家の皆行ふところなり。此の世の中は、此の如き亂暴なる、支離滅裂なる、正理の行はるゝ世の中なり。獨り我が

國にのみ存する事實に非ずと雖も、我が市井に存在する藝妓なるものは、賣淫を營業とする者たるは、公然の事實なり。賣淫は刑法の罰する所、而かも、市街に藝妓町なるもの存在して、軒を列ぬる待合の繁昌し居りて、立派なる營業として公認せられ、平隱、且つ公然に賣淫を行ひ、之れに對して、租税を拂ひ居るは、奇々怪々の事實にあらずや。

之れ皆、男子の不品行を公認して、之れを保護するの制度なり。而して、賣淫に對する國家の態度は、常に滑稽にて、男子の不品行は、責の婦人に在りと爲すに似たり。豈に婦人の堪ゆる所ならんや。猶賣淫の事實は、婦人の凶惡なると、男子の無邪氣なるとより起るとするに似たり。故に、常に婦人を罰して、之れに對して男子を保護するは『女は罪惡の容器なり、大なる誘惑者なり』とするならん。男子は常に自稱して、剛强なりと云ふ。此の場合にのみは弱くして、誘惑さるゝ者たるを以て甘んず。誠に都合の好き理屈なりと云ふべし。

娼婦を以て惡むべき墮落者と爲し、男子を以て之れに誘惑さるゝ憐むべき者となす。然れども、全く事實に反せり。惡む可きは男子なり、不品行を、其の公認せられたる、正當なる特權なりとする男子なり。之れに淫を賣る女子は、不品行を喜び、情慾を充たさんが爲めに、之れを敢てするに非ず。憐むべきは實に不幸なる娼婦にして、彼等の陷て娼婦となるは、止むを得ざる窮迫の結果なり。之れを乘ずべしと爲して、金錢を以て誘ひ、貞操を買ふ男子をこそ、人道の怨敵と爲すべけれ。

□娼婦發生の原因

獨逸の廢娼運動家アナー、パプリッツは其の著『娼婦の經濟的原因』に於て、獨逸婦人の經濟上の關係の、彼れ等を驅て、止むを得ず娼婦たらしむるに至れるを說き、種々の實例につき、數字を擧げて、獨逸婦人の、到底衣食住の費を得ること能はざるを示せり。獨逸帝國内務省の報告も亦、娼婦の原因は困窮に在ることを云へり。伯林工業委員は、伯林に於て比較的多數の賃錢を得る、洗濯婦と雖も、勞働時間以外には、娼婦たることを報告せり。ポーゼン州廳の報告は、獨逸婦人生計の困難と、娼婦との關係を述べ、遂に『婦人勞働者にして、若し娼婦たらざれば、其の主なる營養物は、馬鈴薯のみなり』と云へり。此の如きは、獨り獨逸に於けるのみならず、諸國に共通の事實ならんと信ず。然れども、尙ほ之れのみに止らざるなり。嘗て巴里の娼婦について取調べたるに五、〇〇〇の娼婦の中につき、一、四四〇は衣食の窮困に迫りて、娼婦となりたるものなれども其の餘は皆他の原因に出でたるものなりと云ふに至て、娼婦の益々憐れむべきを知るなり。一、二五〇は兩親を有せざるか、又は兩親の資力なき者なり。八〇は兩親を養はんが爲めに、娼婦たりしものなりと云ふ。我が國に於ては、婦人の獨立に生活すべき事情は、歐米に比して少なきも、然れども之れと同時に、更に憐むべき、一家の貧困に迫り、親の老病なるに藥餌を供せんがため

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

に、無知の少女の身を娼婦に賣ると云ふが如き話は、頻々として聞く所なり。此の不幸なる、哀れなる婦人を責めて、堕落者となし、之れに石を投げて、益々谷底に墜し落さんとする冷酷殘忍の所業を、平然として爲す者は不品行の特權ありと自信する男子也。男女の差等茲に至て天淵の如しと云ふべし。かくても、人道は此の世に行はると云ふことを得べきや。

□果して之れ何人の罪か

然れども男子の惡虐は之れのみに止らず。憐む可き少女の娼婦となりし者を、快樂の用に供して、平然たるのみならず自ら少女を誘て、娼婦たらしむるの原因たる場合の多きを聞くに至ては、世は鬼畜の世の中とも云ふべく、人をして唯だ嗟嘆を發せしむるのみ。巴里に於ける五、〇〇〇の娼婦の内右に擧げたる者の他、一、四〇〇は、情夫より遺棄せられたるものなり。殊に四〇〇は、軍人に誘拐せられ、巴里に置き去りにせられたる少女なり。二八〇は、懐胎中情夫の逃亡したるものなりと云ふ。カル、シユナイトが、伯林に於て給仕婦を尋問して得たる所を、報告するを見るに、襯衣の裁縫に依りて、十分の所得を得る能はざるが故にと答へ、工場より解雇せられたるが故にと答へ、又父死して小弟を養はざるべからざるが故にと答へたる者の外、雇主の子を懐姙したる故にと云ふが如きもの、最も多かりしと云ふ。而して、下女の雇主に誘惑せられたる者の、娼婦の大部分を占むるは、知れ渡りたる事實なりと云へり。

社會主義者は、現代社會を攻撃するを事とす。べエベルが擧ぐる所の事實の二三を示せば、上流社會も亦娼婦の一部を供給す。唯だ其の原因は、困窮に非ずして、誘惑、及び輕佻の生活、華美、快樂を好むの傾向なり。所謂る上等娼婦なるもの之れなり。又女俳優は其の所得、衣裳の費を滿たすに足らざるが故に、汚穢なる所得の途に從ふを常とす。工場主、官吏、商人、地主等は、屢々其の使役する女子を、其の情慾の爲に、使用する權利ありと、心得居れり。田舎に於て、少女も、人の妻も、地主、又は演習の際、士官に依りて、汚がさるゝは常にして、田舎に於て、十七歳以上の少女にして、堕落せざる者は、一人もあらざるべし。伯林市街に於ける、娼婦媒介の目的に供せらるゝ一場屋は、四百以上の座席を有し、毎夜定客として貴族紳士出入し、朝に至るまで嬉遊すと云ふ。

かくの如くにして、娼婦は年々恐るべき勢を以て増加するなり。「最も貧しき茅屋より、最も華麗なる宮殿に至るまで」蔓延する娼婦の數は、之を算出する事、到底不可能なり。倫敦に於ける娼婦の數は、八萬なりと云ひしは一八六〇年頃のことなり。一八八二年巴里市役所の調査に依れば、十二萬以上の娼婦ありと云へり。伯林にて五萬以上と云ひしも、數年前のことなり。一八九七年、伯林に於て、密賣淫の故を以て罰せられたる者の、總數二萬二千九百十五人に達せり。べエベルは獨逸全體に於て、約二十萬人なりと測算せり。(つゞく)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

歐米最近婦人運動史（二）

早稲田大學教授
廓清會副會長　安部磯雄

△英國に於ける婦人運動

今日婦人參政權運動と言へば何人も先づ英國を聯想する。然も英國の婦人が殆んど三百年以前より男子と同樣參政權を有して居たといふことを知つて居る者は甚だ少ないのである英國人は『代表者を出さゝるものは納税の義務なし』といふ原則を信じて居たのであるから、納税者には男女に拘はらず市會議員や國會議員を選擧するの權を與へて居た。然るに婦人は殆んど二百年間も此權利を行使せず、男子も亦漸次專橫になりて婦人を輕視するの傾向を生じたるため、一八三二年には先づ婦人より國會議員の選擧權を奪ひ去り、一八三五年には市會議員の選擧權をも奪ひ去つた。若し此時今日の如き婦人の活動があつたならば、婦人の參政權を維持することは實に容易であつたに相違ない。誠に惜いことをしたものだ。

其後英國に於ては奴隷廢止問題及び穀物條例廢止問題の如き重要なる政治問題が起つたゝめ婦人も漸く政治問題の何たるを理解する樣になつて來た。同時にコブデン、ピース、ビツクス、ナイトといふが如き自由主義の名士は大に婦人參政權に贊同を表したのであるから、婦人運動は著しき發達を爲すに至つた。一八六七年新選擧法案議會に提出せらるゝこととなり、其目的は財產資格を引下げて選擧權を擴張するに在つたのだから、婦人は請願書を議會に提出して婦人に參政權を與へんことを要求することゝなつた。有名なるデスラヘリーは嘗て『婦人が君主となり、貴族となり、教會の理事となり、領地の所有主となり、貧民の救濟委員となり得る國に於て、婦人の投票權を否認する筈がない』と言ふた。其當時下院議員の一人たるジョン、スチユアート、ミルも大に婦人參政權に贊同したのであるから、一八六七年五月八日彼の紹介によりて四通の請願書が提出せられた。第一には一千四百九十九名の婦人署名し、第二には一千六百五名の婦人納税者、第三には三千五百九十九名の婦人、第四には三千名の男女が署名した。ミルは議會に於て婦人に參政權を與ふべしといふ動議を起したのであるが、其の動議は七十三名に對する百九十六名の多數にて否決せられたのである。玆に於て婦人は組織的運動を起すの必要を感じ、ロンドン、エヂンバラ、マンチエスター、バーミンガム、ブリストルの諸市に於て婦人參政權獲得期成會を設立することゝなつた。

初め『選擧法』に於ては有權者を表はすに『人』なる語を

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

用ゐて男女の區別をしなかつたのであるが、婦人より選擧權を奪去るに及び「人」なる語を改めて「男子」とした。然るに一八六七年の新選擧法に於ては再び「人」を用うることになつたのであるから「人」は婦人をも含む、然らざる場合は之を明記すべしといふ英國法律の明文に從ひ、婦人は選擧人名簿に登錄せられんことを要求し、終にこれを法廷に訴へたのであるが法廷は其要求不當なりといふ判決を與へた。婦人等は之に屈せずして益々其運動を繼續したる結果、一八六九年イングランド、スコットランド及びウエールスに於て婦人納稅者は終に市會議員を選擧するの權を得ることゝなつた。

婦人參政權運動は單に婦人のみの運動ではなくて議會の內外に多くの男子同情者を有して居る。婦人參政權が初めて法律案として議會に現はれたのは一八七〇年であつたが、其後一八七五年、一八九二年、一八九六年、一九〇二年、一九〇三年、一九〇四年、一九〇六年、一九〇七年、一九〇八年に提出せられ、一九〇九年には二度も提出せられて居る。然も婦人は其目的を達することが出來なかつた。玆に於て彼等は一八八五年政治界に勢力を得るの目的を以てプリムローズ同盟を組織し、保守黨の候補者にして婦人參政權に贊同する者を應援することゝなり、一八八七年には『婦人自由同盟』を設立し、自由黨の候補者にして婦人參政權に同情する者を應援することゝなつた。

一九〇五年以來自由黨は政權を握り、大臣の半數及び下院議員六百名中殆んど四百名は婦人參政權の同情者たることを公言し、且つ彼等の多くは婦人の援助を得て議員となつて居るに拘はらず、婦人參政案の出づる毎にこれを否決し去つたのである。今や政府をして自ら婦人參政案を提出せしむるの外なきことを悟り、婦人は暴力に訴へても政府を鞭韃せんことを決心するに至つた。これ卽ち一九〇五年秋のことであつた。先づ其戰鬪準備として彼等は各地に婦人團體を組織し、國內至る所に集會を開き、時々行列をなして示威運動をなすことを決し、これがため每年三萬磅の資金を集むることゝした。今や彼等の基本金は五萬磅に達し、機關雜誌としては Votes for Women を有して居る。此戰鬪的運動の首領株はパンカースト夫人、パンカースト孃、ドラモンド夫人、ケニー及びローレンス夫妻である。

其後に於ける婦人の運動は我國の新聞紙にも傳へられたる如く漸次狂暴となり、商店の硝子窓破り、大臣の演說妨害、別莊の燒打、郵便物の汚損、博物館に於ける名畫の破毀は其重なる暴行であるが、中には痛快なること及び滑稽なることもあつた。一九〇九年二月十六日議會の開會に當りマッタース孃は飛行船に乘りて女權論者の檄文を散布したのである。同年二月二十三日には二人の女權論者は首相アスキスが一切女權論者に面會することを拒絕するを憤り、自ら郵便物となりて首相邸まで配達せられ、大にアスキスを驚かした。其頃より戰鬪的運動に從事する婦人にして牢獄に投せらるゝもの漸く增加した。彼等の中には不食同盟を作りて自ら餓死せんと決心した者があつたので、政府は九月二十三日、婦人中の

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

或者に強制的に牛乳を飲ましめた、同じく十月六日勞働黨の一議員ケヤー、ハーデーはこれに關して政府に質問を試みるといふが如き騷ぎか持上つた。

今や歐洲戰爭のため婦人は暫く其運動を中止して居るけれども、彼等は決して永久に其要求を放棄するものではない。若し平和回復後英國民にして尙ほ婦人の要求を拒絶するが如きことあらば、婦人は必ず倍舊の勇氣を以て其主義の爲に奮鬪することであらう。言ふまでもなく彼等は自ら好んで暴行を爲すのではない。何となれば是は彼等の天性に背くからである。然れども彼等はより高き目的を達するために斯る手段を採ることを以て寧ろ彼等の義務と信じて居る。參政權を得るためには男子も多くの暴行を爲し、多くの血を流した。婦人にも同一の運命が來るのだとは彼等が眞面目に考へて居る所の事らしい。

△米國に於ける婦人運動

合衆國の婦人も英國の婦人と同じく遠き昔に於ては選擧權を有して居た。英國に對して獨立を宣言したる十三州の內九州は一七八三年前に於ては充分に婦人の投票權を認めて居た蓋し各州の憲法は『代表者を出さゞる者は納稅の義務なし』といふ原則を基礎として居たからである。但しヴアジニヤは一六九九年、ニユーヨークは一七七七年、マサチユセットは一七八〇年、ニユーハンプシヤーは一七八四年に投票權を男子にのみ限ることにした。然るに此傾向は漸次勢力を增し、終に他の九州も選擧法中に『男子』の二字を挿入することになり、女子の選擧權を奪ひ去ることゝなつた。これがため米國婦人の運動は主として其全力を參政權獲得の方面に注ぐことゝなり、最初より政治的色彩を帶びて居た。一八四八年歐羅巴に於て革命に參加したる婦人若干名は米國に來りて其隱家を見出すことゝなつたので、參政權運動には一大勢力を加ふることゝなつた。

然れども米國に於ける婦人運動史に一新紀元を造つたのは奴隸解放に熱烈なる同情を寄せ、一八三二年ボストンに於て初めて奴隸廢止會の組織せらるゝや十二名の婦人は直に其會員となつた位である。而して一八六三年奴隸の解放を見るに至り、其論理的歸結として黑人の男子は白人と同樣選擧權を得ることゝなつた。其當時に於て選擧者の資格なきものはインデヤン、白痴、瘋癲、犯罪者のみであつたから、婦人を奴隸より劣れるものとして、或は白痴瘋癲と同一の者として待遇するといふことは甚だ不當であるといふ議論が有識者の間に起つて來た。其後に於ける婦人參政權運動は着々其效を奏し一八六九年ワイオミング州は劈頭第一に婦人に參政權を與へ、次でユタ州は一八七〇年に於て、コロラド州は一八九三年、アイダホー州は一八九六年、ワシントン州は一九一〇年キヤリホルニヤ州は一九一一年、ミシギヤン、カンサス、アリゾナ、オレゴンの四州は一九一二年に於て婦人に參政權を與ふることゝなつた。

婦人が參政權を得たる後其政治界に及ぼしたる影響は極め

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

て善良にして、何人もこれに關して疑を挾む者はない樣である。是は啻に米國に於て然るのみならず、濠洲に於ても亦然りである。今婦人に參政權を許して居る各州に於て實行せられて居ることを大略陳ぶることにする。(1)婦人が參政權を得てより選擧は一般に靜穩に且上品に行はれる樣になつた。(2)同一事業に從事する男女は同一の賃銀或は俸給を受くることとなつた。(3)女子の承諾年限は十八歳で、男女は同一條件の下に離婚を請求することが出來る。(4)男子同樣に相續權を所有して居る。(5)父母共に同樣の親權を所有して居る。(6)婦人が鑛山に於て勞働することを許さない。婦人の勞働時間は八時間を超ゆることを許さない。(7)十四歳以下の小兒が鑛山に働くことを禁止して居る。(8)小兒に酒類及び煙草を賣ることを禁止して居る。(9)婦人は如何なる職業に就くことも出來如何なる學校に入りても教育を受くることが出來る。(10)賭博及び娼妓を嚴禁して居る。(11)婦人に參政權を與ふれば私娼の如きものが選擧權を濫用するだらうと論ずる者があつたが、私娼は多く變名し、且つ住處不定なるが故に、實際に於て投票するが如きことはない。(12)婦人は陪審官となることが出來る。

全體米國程女權の伸張せられて居る所はない。男子の爲すことは女子も同樣になすことが出來るといふ國柄である。婦人の辯護士一千名、婦人記者二千名、婦人説敎家三千五百名、女醫七千名、建築家五十三名、船長五名、楫取四名、機關手二十四名あるのを見ても略想像することが出來る。其他營業に從事する者に至つては其數は更に多い。一九〇〇年の統計に據れば銀行書記千二百七十一名、帳簿方二萬七千七百十二名、速記者八萬六千百十八名、郵便、電信、電話局員八千四百七十四名、警察に働く者三百名、商店に働く者五十萬三千五百七十四名である。其他工業に從事する婦人は百三十一萬五千八百九十名、農業に從事する者は九十八萬名（男子は九百四十五萬八千百九十四名）、下婢の數は二百九萬九千百六十五名である。而して商店及び工場に働く婦人の報酬は毎週八圓乃至十二圓であつて、毎週二十四圓を得る者は全數の一割八分に過ぎない。これを男子が毎週平均二十四圓乃至三十圓を得るに比すれば少からぬ相違である。然し米國が婦人にとりて一大樂園であることは疑なき事實である。

婚約破棄事件判決の要領

今回大審院に於ては「内縁の妻」又は婚約を認むる偉大なる新判例を開いた。其要旨は

「婚姻の豫約は適法にして有效なり、婚姻を爲さしむる事を強制するを得ざるも相手方が被りたる有形無形の損害を賠償すべき責に任ずべきものとす」

「準備行爲と其品位名譽毀損等有形無形の損害を賠償する責任あること正義公平にして法律の精神亦之に外ならず」

此新判例によれば入籍を濟ませずとも既に結婚せし場合、結婚せずとも婚約によつて精神的に貞操を其良人に捧げた場合、離婚の恥辱や其他一切の損害を賠償するの請求權が確立した譯である、結婚上に於ける著しい人權の擴張といはねばならぬ。

或女に與ふる書

日向きむ子

　私は今靜です、最早怒つてなどは居りません。彼處の家であなたからYさんを委任狀と共に引取る事になつた晩、私はあなたをあれ程に云はなくてもよかつたのです、かりにも一度は小母さんとまで呼んだあなたを、あれまではぢしめなくてもよかつたのです。あなたが私をぢり〳〵させてしまふ程長かつた沈默のあとで『最早心配はしません、はじめからさう話がわかつてゐればなんでしたが、たよりに思ふあなたからあんなにひどく云はれたので、私の樣な何も知らない者はどうしてよいかわからなくなつてしまつたのです、何卒末まで見捨ずに』とおつしやつたのを思ひ出すと、本當に私がもつと靜かに話さなかつた事をはづかしいやうにも、また不深切であつたといふやうにも思はれて、お氣の毒な事をしたと今思つて居ます。

　Yさんはあれから私の處で、家のものの手傳ひなどして快活に暮して居ります眞赤な半襟は紫に縮緬の羽織は紡績がすりに、唐人髷はお下げ髮に變へさせました。私はあなたが夫に死別れ、あなたの心がらとは云へ瞬くうちに遺産の全部をなくしてしまつて、唯一あてにしてゐたYさんを私に渡してしまつて、親せきにかゝりうどをしてゐる事が、どんなにか淋しいだらうと、日に幾度も思ひ出します。どうかしてその淋しい心もちからのがれて、望にみちた生活が出來るやうにしてあげたいと思ふのが、今の私の心の底から湧いて來るねがひなのです。

　私は今から一昔も前に、あなたが兩親のない小さいYさんを貰つて、藝事をしこみ始めたと聞いた時、今日ある事を豫想して實は心配して居りました。それはあなたが、お花をひく癖がある爲に、不眞面目な考へをするやうに傾いてゐる事を、よく知つてゐたからです。あなたは先達ての晩『Y子を横濱へやつたと云つても、それは決して藝者屋の方へではなかつたのです、今はよしてゐて本牧の方にゐる人の家へ泊りにやつて置いたので、そんなにあなたに云はれるやうな事をした覺えはありません、ことに私がなれと云つたのではなくて、本人がしきりに藝者になつて、母さんのめんどうを見たいといひますから、私は義理ある仲だからどうしてもお前をさうする事は出來ないが、強つてさうなりたいならお姉樣にお前から相談して見るがよいと云つた丈なのに、Y子が自分で横濱へ行つたのです』と仰いました。しかしそれは云ひ譯に過ぎないと、私は思ひました。

□ □ □ □

　あの晩もいひました通り、それではまるで私にはさしづ出來ないが、お前が孝行したいと思ふなら、自分から進んでお姉樣に賴んでさうなるがよい、私は決し

てなれとは云はないが、自分からとして云つでお呉れ、といふのと少しもかはりはないのです。斷然それはならぬとあなたが云はなれけばならぬ處です。Y子にはまだ法律上の自由がないのです、それだからあなたが後見といふ役になつてゐるのです。

しかしそれは最早責めません、あの時私が「あなたは自分の爲ばかり考へてY子の爲は少しも考へないもし眞實の母親で絕對の愛があるなら私が引取つて一人前の女になる丈の敎育を身につけてあげます、と云つたら二つ返事でどうぞさうして下さいと云ふ筈です。自分が人の家に厄介になつてゐてYさんの敎育が如何して出來ます。別れてゐては淋しくてならぬと云つて、今までも洲崎の廓近い家や、橫濱の藝者屋へ置いて玆から顏が見えましたが、それはみな自分の爲ばかりの醜い口實なのです」といつた時に、あなたは本當の事をいひました、「それはなさぬ仲の子ですから、今あなたの方へ取られて私丈捨てられるのでは全く心細う御座んす、かゝり子のHは大阪に居て、私にはつれない仕方ばかりしてゐますし、後になつてY子からも知らないと云はれたら、私は路頭に迷はなければなりません、あなたはこんな若いY子を今から喰物にしやうとは何たる慘酷な人だらう、とおつしやるが、私は今喰べやうとはまさか云ひやしません、たゞゆく／＼は（やはり喰べる事になるのかもしれませんが）この子にかゝらなければならないのですから、何卒後々まで私を忘れてはいけない、お母さんを見なければならないのだといふ事を、あなたからよくいひ聞かせて、不義理をしないやうにして下さい」とおつしやいました。それから又私が「それはよくいひもしますが、ゆく／＼と云つてもそれは全くわからない事です、あなたがそれまで生きてゐられないかも知れないし、私が今夜死ぬかもわかりはしません、またYさんが死なゝいまでも非常な病氣をするとか、怪我をして不具になつてしまふとか、皆が揃つて今の通りでゐるかどうかは、お互にまるでわからない事です。

さうした約束がどれ丈の安心になるでせう、それよりもたゞ愛をもつて、今Yさんの爲に一ばんよいと思ふ事をしてやりさへすれば、生きてゐる以上はそのありがたさ嬉しさは忘れるものではありません、義理詰めの約束よりも、情でかして置く方が取はづしのない貸借です」、と云つたのを、あなたは覺えていらつしやるでせう。

□　□　□　□

あなたばかりではない世の多くの人が報ひとか償とかいふ事に就いて、今少し深く考へたら、罪を作つたり不安に悶えたりする事がなくて、どんなに幸福な日が送れるだらうといふ事を私は常に思ひます、あまりに自分の爲ばかり考へると、かへつて自分を傷け自分の幸福を追ひやつてしまふやうな事をして、自ら苦しみ歎いてゐる人がどれ程多いかわからないのです。

あなたは何と思つていらつしやるかしれないけれども、決して世の中に思はぬ幸福、つまりひとりじめのやうなうまい事や、自分丈は特別に天からめこぼしになつて、作つた丈の罪をつぐなはないで濟むなどゝいふ事はないのです。

そこは皆公平に出來てゐて「私丈は」といふ事は斷じてないのです、どんなにその法則の外まで馳け出した積りでゐても、やはりその內でかたをつけられて、蒔いた丈のものを苅るやうになつてゐるのです。めに見えてした損失も見えない中に沒して、後に見えない處で息まずに働いて、利に利をうんでゐるのですですから本當に損といふ事は存在しないのです。手品師の赤い鞠のやうなもので、右の手で投げると同時に左の手にかへつて來てゐるのです。ですから一番間違ひのない事は、自分が得やうと思ふならば與へさへすればつまりそれが得る事になるのです、尤も自分の目にも見え人のめにも見えて、あたりの事情を傳はつて報ひが來るといふ時まで、しばらくの時間が經つやうな事もありますが、それは延期してあつた其時が來たのと同じ事なので、實は與へた時にもう自分がひきかへに受けてゐたのです。

與へた時の心の滿足そのものが永遠に通用する約束手形なのです、それを必しも現金に替へて使つて見なければ、自

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

分の所有と信ずる事も、それによつて樂しみを受ける事も、出來ないといふ事はありますまい、先その手形を手にして御らんなさい、何とも云はれない大きい心持ちになつて、またその手形を人に與へて見たいやうな美くしい氣になつて來るものです、さうした時には厭でも應でも引換る毎に額面はふえて來るのです。

□　□　□　□

かりに權利義務の一點張りで、老後の世話をある人にさせたお老婆さんがあるとして、考へて御らんなさい、もしその人が約束とかあるひは恩をきせられて、よんどころなくいや〳〵引取る事になつたとして御らんなさい、その人は言か或は心でいふでせう「お老婆さん私はあなたを實は邪魔だと思つてゐる、けれどもあなたは法律や世間のおもはくを笠に着て、私の處へ轉り込んでおいでになつたて私は仕方ないからお世話をいたします、しかし疾くゐなくなつていたゞきたい」と。それでそのお老婆さんに眞のよろこびと安心が何處にあるでせう。

それよりも人も何も當にせず、若い時にはたゞ人の爲を考へてよい事ばかりして來たお老婆さんが、行きどころなくゐたとしたら、その恩と情を感じてゐる人達が如何して見殺しに出來ませう、その時は心から「おばあ様、あなたは私を愛して下さつた、私はあなたに出來る丈のおせわがしたい、なる丈長く生きてゐて私の出世を見てよろこんで下さい」と誰もいひませう、思ひもしませう。報償を望む心にでも是丈の差はわからなくてはならぬと思ひます、本當の幸福はそんな事すら考へないで、人を愛する爲に愛するといふのが一番樂しい生命の糧なのです。自分が愛されたいと思つたら先づ人を愛さなければ駄目です。

自分の都合をあなたが先に考へれば、人も又あなたの都合よりも自分の都合を考へるやうになつてしまふのです、是は九九の數のやうにもうきまつてゐる事なので、決してさしひきのない天地の嚴かな法則なのです。Yさんを醫者にするといふ事に就いても、私が大問題とするほどあなたは大した事とも思つてゐらつしやらないやうです、しかしそれは實際私がいふ以上にひどい事なのです。また其ほかに何處か財產家の若旦那が容色のよい嫁を探してゐるといふ話を聞いて、その方へ向けやうと運動もしてゐらつしやるといふ事も聞きましたが、それも矢張考へものです、否いけないと思ひます、ことにこちらの條件がYさんが「お母さんさへ見て下さればどこへでもゆきます」といふのだと聞いては、なはさらいけないと思ひます。

□　□　□　□

第一その先の人がこちらの人格品性──とまではゆかなくとも、せめては個性そのものに對して何か見處があつてのぞまれたのなら兎に角、單に容色！　それは絕對のものでもなければ長く保つべき性質のものでもない、まるで浮雲のやうなはかないものです。萬一選みに叶つてもらはれたとしても、より以上のものが後から現れたり、その美くしさが病氣とか年齡とかいふものから變つたら、同時に資格がなくなつてしまふ譯です。木の葉の上に玉をのせて水に浮かせるやうな事が、どうして出來ませう。また或る程度まで精神の象徵とする財產からいつても釣合ひはとれず、つひにはこつちの自由といふ何にもかへられない貴重なものをもつて、おぎなはなければならないやうな不經濟がめのまへに見えてゐます。「お母さんさへ見て下されば」などゝ云はせるやうにまでするとは、あまりといへばあんまりな、貞操の虐待です。なつかしさも慕はしさも心のうちに起らない人に自分の身を投げ與へる、そんな事がやさしい淸い處女の身で希ふ事かどうか、

考へてやれば直にわかる事です。たゞ七歳から拾年間、尊い純な愛の表現でもない、僅ばかりの被服費や食料費や醫藥の代や月謝など負擔して貰つたといふ丈の事で、それ程多大な貴重な價を拂はなければならないといふ譯がないと私は思ひます。

利害得失を自ら考へて契約し處理してゆく丈の能力のない子供相手に、そんな生命の貸借關係を結ぶ事が罪でなくて何でせう、いかに自分の產まない子でも――あゝ今幾多の人の子がそんなめにあつてゐるかを思ふ時に、私はもう云ふ言さへなくなつて了ひます。又そんな無慘な事を、それ程の事ともしらずあへてして、天の怒りと當然の罪の罰とを永遠に受けてゆく哀れな人々の靈の危さを思ふ時に、私は淚が止どなく流れるのです。

□ □ □ □

どうぞあなたは目を覺して自分で自分を捨てるやうな事をしないで、まだ身體がきかないのではなし、出來る丈のはたらきをして今一度家でも起す氣になつて何かしてみるやうに心がけて下さい。あなたがさうしてゐるのを見ればHさんだつて、Hさんのお嫁さんだつて、決して外になど見はしないでせう。神は自ら助ける人を助けるといひます、出來る丈の事もしないで、他に待つといふ事は神の心に叶はない事です、天地の道理に合はない事です。

自分の產まない子を自分の產んだ子よりも、もつと本當に自分のものとする方法があるのですから、なさぬ仲といふ事を不安心に思ふ事は少しもないのです。たゞ產んだといふ丈の事はさう大した事ではないのです、一ケ月も見ないでゐると全く忘れてしまふ猫の母親でも生む丈の事はします、生きた關係の本當につながるのは、本當に愛するといふ心靈の裏がきがされてからの事なのです。その自分のものにする方法といふのは、自分を忘れてその子を愛してゐる事を、眞からその子に認めさせる事です、認めさせるといふ事は心の底からその子供を本當に愛すればよいのです。

私に欺されたと思つて、一寸でもさういふ心になつて御らんなさい「私」の心は起きあがり小法師のやうなものです、投げるときつと立つのです。あなたがもしさういふ氣になれば、もう其日から幸福な人になります、心配など少しもないゆつたりした、樂しい日が送れるやうになります。天はあなたに再び家を起してゆく丈のよい智惠を授けるにちがひありません。天は高い上にあつてあなたと沒交涉に、沈默してゐるやうに見えても決してさうではないのです、あなたとつながる電話の線が、その一端があなたの心の奥にあるのです、あなたが今淋しいやうに思つてゐるのも、私がつれないやうに見えるかも知れないのも、みなそれを悟らされるまでの苦しみなのです、早く悟れば早くゆるされるのです。私は今しばらくだまつて時の來るのを待つて居ます、やがて其時が來ましたらあなたは被つてゐる笠がとれたやうに明るく廣くお感じになるでせう。其時には私もあなたを兩腕に抱えて「小母さん！」とまた呼びませう。私に世話になつてゐると思つて感謝してゐるYさんは、自分では知らないで、私に希望と充實と緊張と柔和とをおみやげにもつて來て、元よりも幾倍といふ利益を與へてゐるのです。私は金錢では買はれない本當の寶を、早くあなたに分けたいと思ひます。

いろ／＼な言を云つて大變失禮いたしました。

酒の子孫に及ぼす害

東京帝國大學教授
醫學博士　片山國嘉

酒は飲む人自身に非常なる害を與ふる物であるのみならず、間接に子孫に戰慄するに堪へたる害毒の及ぶものである。今日は飲む人自身に與ふる直接の害は暫く措き、專ら子孫の影響に就て述べて見たいと思ふ。

酒を飲めば、食道を通つて胃腸に入り茲から血管の中に吸收される。そして血の中に這入つて身體中をめぐるのである處が其酒の中に含まるゝアルコホールが有害であつて細胞に傷をつける。御承知の如く身體は細胞から成立つてゐて、其細胞の中の主なるものは何であるかといふと蛋白質である。恰度堤を築くのに袋の中に土を盛つたものを積み重ねるやうに、細胞は蛋白質を主成分として築かれる。然るに酒といふものは蛋白質を破壞するものである。最も簡單に有害であるといふ事を知る方法は、卵の白味（白味は蛋白質である）にブランデーか燒酎か強い酒を注ぐと、白くぶつ〲になる。即ち蛋白質がアルコホールによつて、凝固するのである。身體の中でアルコホールと觸れ合つた蛋白質は、微細であるから肉眼では見へぬが顯微鏡で見ると小さい變化が起る。蛋白といふものは透明な濁りのないものであるが、アルコーボルに觸れた部分は僅少であるとしても濁りが出來る、それが多く腦を犯せば腦病になり、心臟を犯せば心臟病となり、肝臟を犯せば肝臟病となる、何處でも犯された部分はそれ丈傷がつくのである、だから胚種を犯せば子孫に害が及ぶ事は明瞭であらう。

親の飲酒の子孫に及ぶ害	
精神變質	身體變質
一、精神薄弱	一、身體薄弱
二、痴愚白痴	二、結核
三、神經病	三、齲齒
四、精神病	四、罹病增加
五、精神變質	五、乳の缺乏

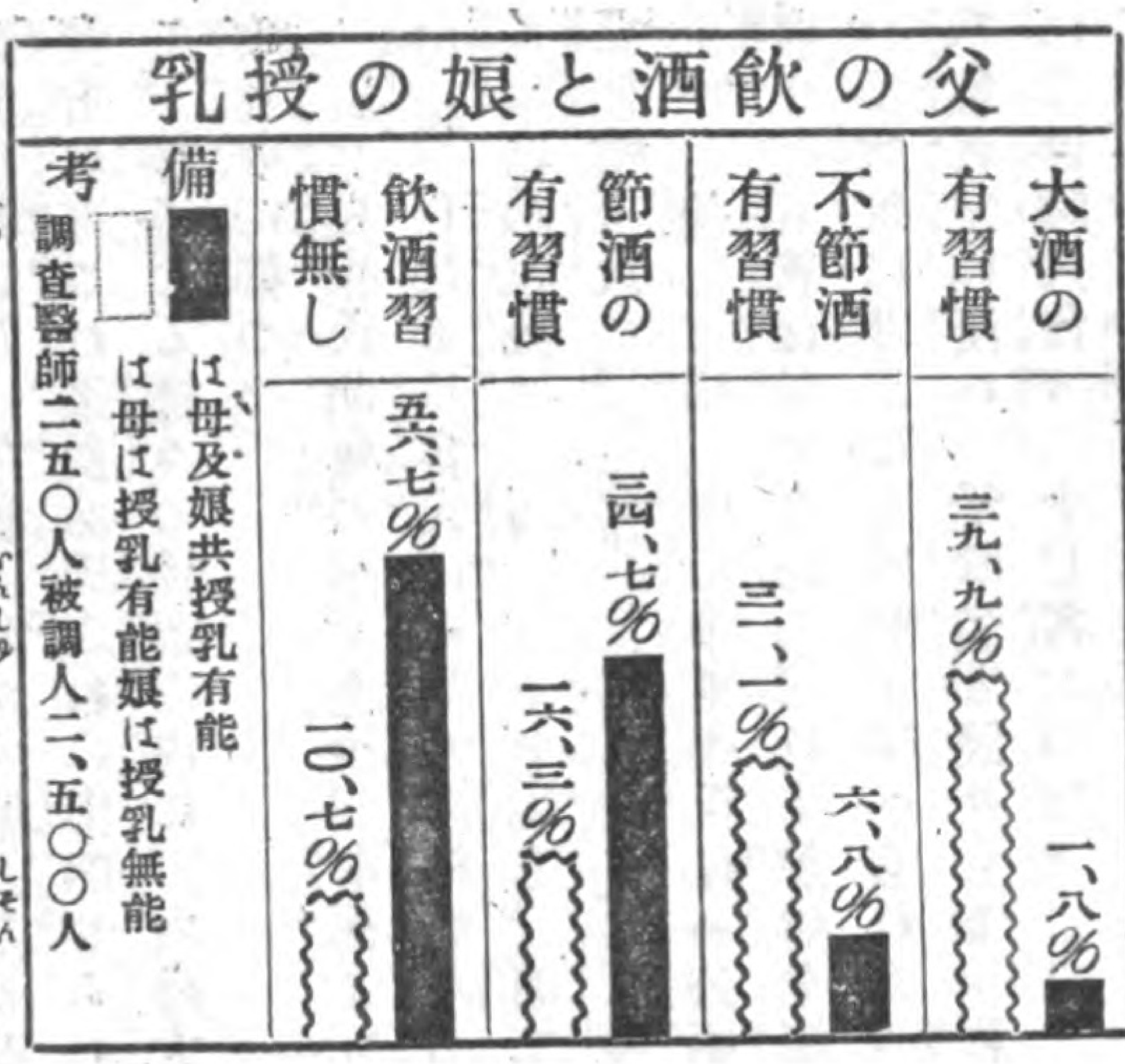
本人が面白可笑しく酒を飲んで居る間に、何ぞ圖らん子種にまで傷がついて、生れ落ちた時から片輪のものや、白痴が出來る。或は形の上にこれぞと擧げていふ丈の事はなくとも樣々な變化が起る。今表にして示すとざつと這麼ものである。但しこれは變化の全部ではない、精神上と身體上との二つに分つて主なるもの五ケ條づゝを選んで見た迄である。

如斯變質が生れ落ちると直ぐから明に起れば人も氣がつくが、十歲乃至十五歲から二十歲位の間に於てよく變化が起る。小學校では大變よく出來たのに中學に行つて急に成績が惡くなつたとか、中學も一二年迄は優秀であつたのに三四年になつて突然出來が惡くなつたりする事が多いので、素人には遺傳と氣がつかぬ場合が多い。第四に擧げた精神病なども通常春氣發動期頃から起り勝ちである。第五の精神變質といふのは何處か並の人と變つた處がある。譬へば算術は一向出來ないが暗記物は頗るいゝとか、片輪な進步をする、或は妙にひねくれてゐるとか、變屈人だとかいふ類の變り者が、酒精中毒の親の遺傳から來る。

身體上に起る變化にも、第一何處となし弱い者が出來る。流產が多いとか、子供の出來方が減るとか、生れても死亡し易く、出來ても虛弱である。第二は病氣に抵抗する力が弱い爲めに結核などに罹り易い、第三には出齒であるとか其他齒並が惡い子が多い、齲齒は

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

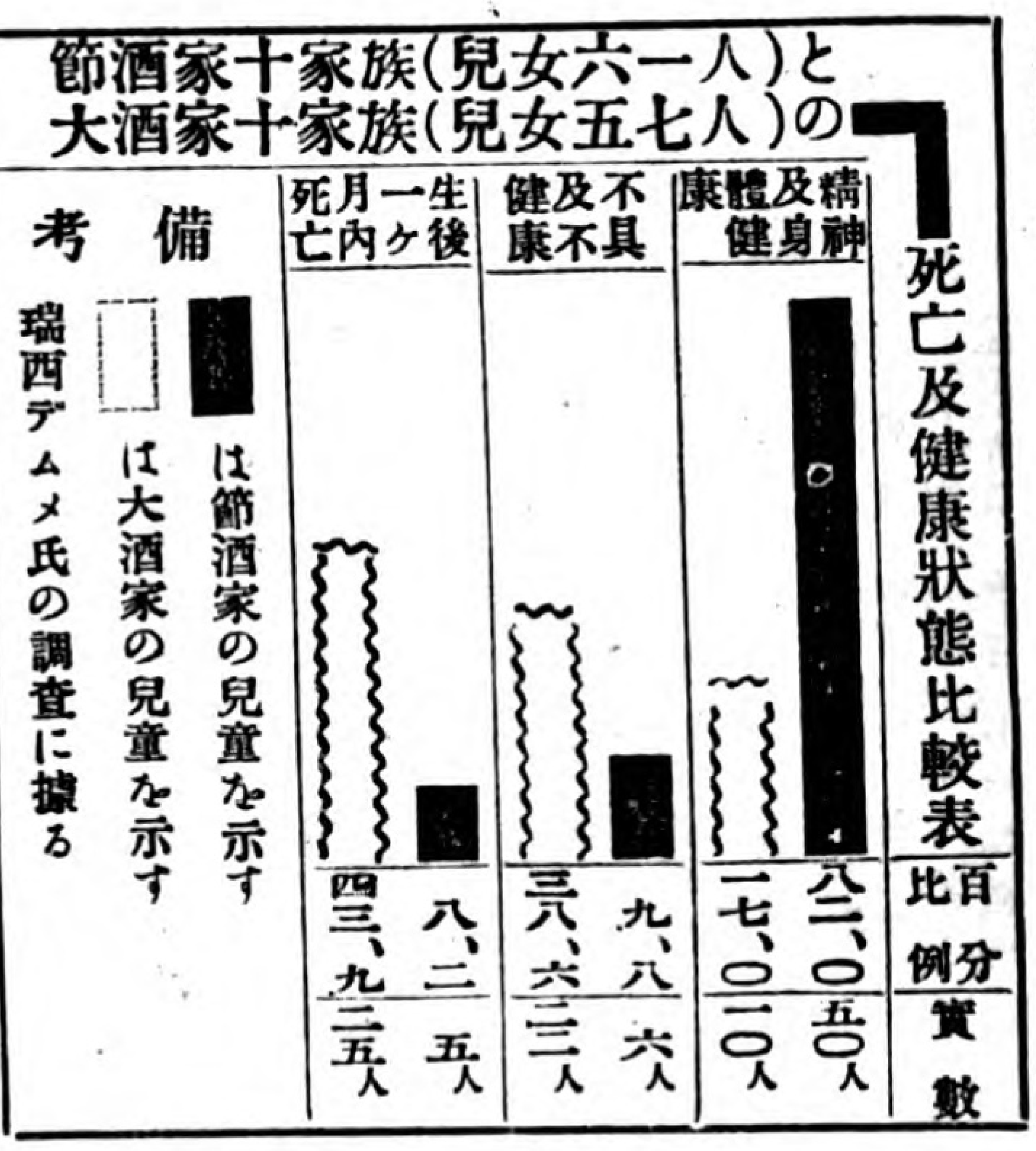
勿論不潔から起るものではあるが、やはり自然罹り易い。第四は病氣に抵抗力が弱くなるから樣々な病氣になり易い。アルコホールの毒は身體の如何なる部分をも犯すが、獨り骨だけは侵されないと考へられて居たのは間違で、糸切り齒の發達が鈍いとか、脊虫や足の骨の曲つたりする者も表はれる。勿論脊虫は他の原因からも來るのであるが、段々調べて見ると、親や祖父に飲酒家がある事は間違のない事實である。第五には娘であれば、其娘に子供が生れた時乳が充分に出ない事實が左表の如き、驚く可き數字を示して居る。



以上の表によりて略親の飲酒の罪なき子孫に恐ろしき害を與ふる事を知る事が出來たであらう。

それでは一體ごの位の金が費されてゐるかといふと、獨逸は一ケ年三十二億マルク(日本の十五億圓)である、日本は正確な事は分らぬが、三億圓は正に下らない。三億圓の金をかけて國民の體力智力を劣惡にしつゝあるといふ事は、個人として國家として大問題ではないか。一體國民の健康を圖る方法、衞生の設備といふものは、下水を完全にするにしても少からぬ金がかゝる。併し乍ら飲酒の問題は啻に金がかゝらぬのみならず飲みさへしなければよいのであるから、あべこべに三億圓の儉約が出來るのである。全然飲まぬ譯には行かぬとして、半分や三分の一少くしても、一億圓の金が浮く。けれども既に飲酒の習慣ある者を止めさせる事は到底六ケ敷い、やはりこれは之れから酒を飲まうといふ少年靑年に飲酒の習慣をつけないのが一番有效である。而してそれは家庭に於て母親の力で餘程實行の出來る事なのである。

一家の主婦たる者は飲酒の害惡を知つて家庭から驅逐するに努めなくてはならぬのであるのに、今日は來客の饗應に善意から酒を勸めて居る。斯の如きは其人一身のみならず兒孫をも毒する所以であつて人を待遇する理智あるやり方でない事は勿論である。乍併、飲酒の習慣を打破するのに、最も現代に適應した實際的の方法を用ふるといふ事に極めて肝要である。假令ば雛祭りに白酒を用ふる、白酒飲んだ位で酒精中毒を起す事はないが酒飲み養成の一手段となる事は爭ふ事が出來ない、神酒の如きも又左樣である。けれども儀式といふものは形であつて形を壞せば儀式はなくなるから、白酒や神酒を廢するよりも、之に代用さるゝものを用ふるといふ事が必要であらうと思ふ。譬へば白酒の代りに、甘酒を用ふる、神酒の代りに、清水を用ふるといふ風にすればよい。



神樣に酒を供へるなどは、實は神の本意に悖り、神樣は人間に害になる樣なものを嘉納し給ふ筈はない。私の家などはお正月のお屠蘇は味淋酒でなくて葡萄液を用ひてゐる、斯ういふ風な改良が私は社會の實際に適してゐると信ずる、禁酒會では宮内省から下賜される金杯を外の物に代へて頂きたいといふ意見の樣であるが、私は構はぬと思ふ。葡萄液や甘酒を盛ればよいのである。私はやはり理窟に陷らず實際に適するやうにしたら、家庭に於て飲酒の風を止める事が必ずしも困難であるまいと思ふ。(文責記者にあり)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

3—118

大阪三週年大會

支部報告

大阪支部に於ては去月十三日滿三年祝賀會を開いた。午後五時から盛んなる晩餐會が催され委員諸氏之れに出席せられて、熱心なる樣々の物語の内に、六時大演說會に移つた。

釘宮辰生氏開會の辭を述べ、本部より出張したる益富當氏は『男女の純潔なる貞操は國家發展の基』なるを論じ、第二席林歌子氏は『御大典記念事業と公娼廢止』と題し、第三席山室軍平氏は『公娼廢止と其善後策』と題し何れも熱辯を揮つて聽衆に非常なる感動を與へられた。來會者堂に溢れ一千餘名と註せらるゝ程にて即時入會者二十七名あつた。

演說中にして救世軍の同地聯隊長たる一宮氏は電車の中で作つたので、推敲の暇もなかつたがとて、壇上に於て自作の廓淸の歌を朗吟せられたのは愉快千萬であつた。因に同支部作の記念歌を左に掲載すべし。

■滿三年誕生記念の歌

一、三とせのむかし　大神は
くしきみわざを　あらはして
濁華のはたに　廓淸の
枝をばわかち　うゑたまふ

二、日々につちかひ　水そゝぎ
雨やあらしに　たへしのび
其根をふかく　かためつゝ
記念のけふを　むかへけり

三、神よめぐみの　つゆをもて
しげらせたまへ　ひと〱の
こゝろのうちに　世をきよむ
なれのつとめを　はたすまで

折返し
つちかひ水を　そゝがなん
神のめぐみに　いやしげれ

演說會會計報告

一金九拾四圓八拾壹錢　總收入

內譯

金五拾圓　廓淸會大正三年度會費より支出
金貳拾圓　大阪婦人教役者會より
金拾圓　坪井婦人
金六圓　武內利夫
金參圓　無名氏
金壹圓　アリソン
金壹圓　吉岡哲夫
金五拾錢　光安梶之助
金拾錢　無名氏
金參圓貳拾壹錢　雜誌賣上代

> **京都支部大會**
>
> 大阪支部大會の翌日、卽二月十四日京都支部に於ても大會を開く、本部より山室、益富二氏出演し、同支部より日高善一氏出演せられ、來會者四百名卽時入會者二十五名を得たり

一金九拾四圓八拾壹錢　總支出

內譯

金貳拾參圓九拾八錢　準備費
金拾貳圓八拾五錢　印刷費
金拾圓九拾五錢　新聞廣告代
金五圓參拾參錢　晩餐費用
金四拾壹圓七拾錢　辯士旅費宿泊謝禮

差引なし

尙當日の會場使並に實費電燈料掃除人等一切靑年會より寄附せられたる事を謝す

大正三年度會計報告

一金八百六拾壹圓八錢八厘　總收入

內譯

金拾壹圓貳拾八錢八厘　前年度越高
金參百八拾八圓九拾五錢　贊助會員會費
金參百參拾六圓六拾錢　正會員會費
金七拾六圓六拾錢　廣告料
金壹圓六拾五錢　銀行利子
金七圓　寄附
金九圓　雜誌賣上
金參拾圓　婦人矯風會より補助

一金八百五拾八圓拾四錢四厘　總支出

內譯

金七百參拾圓　本部へ送金
金六拾八圓貳拾七錢　集金手當
金九圓八拾七錢四厘　郵便並に雜費
金五拾圓　集金費

差引殘金貳圓九拾四錢四厘　現在金

■會員

設立初年明治四十五年
- 贊助會員　百六名
- 正會員　九百四十名
- 合計　千四十六名

設立第二年　大正二年
- 贊助會員　百二十名
- 正會員　七百六十名
- 合計　八百八十名

設立第三年　大正三年
- 贊助會員　百二十二名
- 正會員　六百七十八名
- 合計　八百名

■會費

設立第一年
- 贊助會員　參百貳拾五圓貳拾五錢
- 正會員　四百七拾九圓五拾四錢
- 合計　八百四圓七拾九錢

設立第二年
- 贊助會員　參百七拾九圓拾錢
- 正會員　參百八拾五圓貳拾五錢
- 合計　七百六拾四圓參拾五錢

設立第三年
- 贊助會員　參百八拾八圓九拾五錢
- 正會員　參百參拾六圓六拾錢
- 合計　七百貳拾五圓五拾五錢

■常務委員

釘宮辰生　高木貞衛　佐島啓助
淸水禮子　林歌子　名出登子

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

洲崎事件辯論の反響

天下の鵜澤博士に一言

麻布青年會　曾根正藏

私は廓清會の雜誌第二卷第五號の、伊藤江南氏の救世軍伊藤富士雄氏に對する洲崎戰の記事を見て實に驚きました。間違つて無いかと思ふて幾度びか讀返して見ましたが、事實で在る事を愈〻確めて、其事の意外の意外で悲しくなりました。此後は鵜澤さんの演說會が在つても眞面目に聞く事は殘念ながら斷念しました。勿論其時の高木さんとか、武富さんとか、大井さんとか云ふ手合は、平常主義の無い人たち故此積りで居ればよいのだから格別殘念にも思ひません。只お豪い事で在ると思ふて、場合によれば參考迄に聞て置かない限りも無いが、鵜澤さんは基督者の特に聰明なお方で、博士であるから、世のくわせ者と一つにはならぬと、今日迄信じて仰いで居りましたが洲崎の妓夫等が救世軍人に對する暴行に助力するが如きに於ては、私の樣な虫けら同樣なる無學な者が考へても、其御心底の程が判りましたから、自來信じて仰ぐ事を止めます。

私しは其日暮しの貧乏人で下等の業を以て其日を送る者ですが……、彼の英國のグラツトストンの如く、金錢や不義の爲めには斷じて其主義は曲げません、其事をのみ專一に祈る基督信徒である事を承知して貰ひたい。

私共は世を毒する彼等の如き者をも救はれん爲めに祈り、血と涙とを以て不止得、愛の鞭として場合によりては國法をも利用して本心に立歸らしめればならぬと考へる。斯の如くして正業に導く愛國愛人の赤誠こそ、クリスチヤンたる處ではないかと思ふのであるが博士は何とお考になるのです。之れを止め立て爲すが如き辯護の勞は、丁度隣家のお神さんが金持の倅の惡太郎のしたきを止め立てする樣な者で、野心の程が察しやらるゝ。眞實は鵜澤さんは博士であるから、之れ等の類とは一ツには無論ならないが…… 眞面目に神聖なる法廷で辯論する處を見ると、當らぬといへども遠からずだと思へるから、主義は一ツである我等は此場合氣の毒に感じ同情の餘り、一言申上げるのである。

それは何であるかといふと基督者たる貴下は、哥林多全書にポーロが人の爲めに躓きとなるならば偶像に捧げた食物を食はじと云つたのを何と御解釋になるかの一事であります。博士が假し蘇張の辯を以て自己の此非行を辯護しやうとしても、靑年子弟を躓かしむるの罪は斷じて免るゝ事は出來ません。

爾曹神の國と其正しきを求めよ。天國は近づけり、爾曹悔ひ改めよ。と云ふ處を今一度讀んで味つて頂きたい。

イソツプ物語に狼が小羊を食ふ處がありますが、貴下が●●●●●如何に詭辯を弄するとも畢竟それは狼の見出す理窟たるべきを最後に申上けます。

■高島米峯先生より

拜啓、「廓淸」第二號、御掲載の「洲崎

事件の辯論に就て」と題する高説痛烈骨を刺すの概、近時會心の御論、誠に同感の情に堪へず。候「日本婦人俘虜に辱しめらる」と題する短評亦頗る同感、全體に日本政府は、普通觀光客と俘虜との區別を無視して、俘虜を優待致し居るやらにて、甚だ心外に不堪候、相當の待遇は可然候へ共、優待は考へものに御座候先は一言所感申述候迄に、御座候。

■光盥生君（宇都宮）より

廓清（二月號）誌上、洲崎醜類暴行事件に就て、辯護士に與へたる一文は誠に同感に候。殊に娼妓自由廢業を補助するを以て、營業妨害であると論じたる邊りは、天下一品珍無類の謬迷論、而かも之れが、東都第一流の辯護士の口より出でたりとは、最早沒常識を通越して滑稽の極みかとも存せられ候。彼等は既に娼妓を營業人と認めずして一個の營業品として認つゝあるが如き口吻である。人間と物品とは違ふ、樓主が營業人である如く、娼妓も又營業人でなくてはならぬ。然るに彼等は、樓主のみが營業人であつて、娼妓は其の營業用の器具でもあるが如き論法である。故意か無智か、彼等は法理を解せず、世に醫師の不養生と申すことあれども、實に憐むべき者に候はずや。乍併、彼等とても金儲の爲に辯護士をやり代議士にもなる男、無節操は當然さ頼まるればドンな事でも主義だと云へば敢て齒牙に掛くるに及ばざるも、其利害關係上より弱者の味方として戰ひつゝある救世軍の、救濟事業まで中傷罵倒せる邊は、誠に彼等の陋劣な事を表白して餘りある者に候。最後に、吾等は、公娼制度の存在により生ずる所の斯る不祥事件を思ふ毎に、無量の感慨に打たるゝ者にて候。即ち、吾等の遺憾に堪へざるは、斯る重大なる人道上の、義戰が、動もすると社會よりは「何だ、又始まつたか、女郎屋の主人と、救世軍の喧嘩だ」位にしか思はれず。何時迄も落花流水、雲煙過眼視せられ行く一事に候。あゝ同人諸君よ、この無頓着なる社會人心を、如何にして警醒せしむべきや。

■龜山善三郎君（日本橋）より

今春貴會より、本年度の運動方法に付き、意見を述べよとの仰せで有りましたが、何等資料無き予輩とて、之れと云ふ具體的方法も案出されず、其儘と成つて居りましたが、二月號本誌の伊藤江南氏の（洲崎事件辯論に就て）を拜見しまして、痛切に感じましたは、被告側辯護士諸氏の愚論の數々で有ります、實に驚くの外は有りませんでした。私は辯論者、其の人の人格が疑がはれ、斯かる輩が吾々國民を代表し、或は紳士顏して、上流社會を、濶歩するに至つては、實に帝國の前途が、怪しまるゝではありませんか。今や米國に於ける排日問題も、其一つは吾が邦人の、人格云々にありと云ふ事です。何々博士とか、代議士とかを冠する人の口よりして、此の愚言を聞くに至つては、吾々同胞のため、國家のため、嘆かはしき極では有りませぬか。茲に至つて獨り廢娼問題のみならず、一般人士の人格廓清の急務なるを、今更ながら一層に自覺するにいたりました。無論、憐む可き、悲慘の境遇にある姉妹を救ふべきは、必要では有りますが、一般同胞の思想さへ向上すれば、公娼等の枝葉問題は漸次減少を來し、遂には公娼のみならず私娼に至る迄も、根絶するは、毫も疑ふ餘地は有りませぬ。極力根本的廓清方法に尚ほ一層の大努力を、願はしき次第で有ります。

日本佛教の現狀と遊廓

千葉鼓堂

千葉君は余の友人にして熱心なる佛教徒なり。余は同君に聞くに只日本佛教の數字的現狀を以てした。其遊廓と關聯しての結論は、余の依賴外である。請ふ、我等をして佛教を痛罵して以て快とするものと誤解する勿れ。(釜)

▲數字に現れたる日本佛教

古來日本の宗教研究は八宗見學などゝ云つて、佛教を八宗に分けて居つたが、現今では、却々八宗どころではない。今數字に現はれたる現在の日本佛教を稍ゝ詳細に記して見ると實に左の如くである。

日本佛教現勢概略

●法相宗

法隆寺(大和)、藥師寺(同)、興福寺(同)の三本山併立の一宗たり。
寺院數―四十五。
學校―勸學院(法隆寺中に在り)

●華嚴宗

東大寺(大和)を本山とす。
寺院數―二十一。最小宗派

●眞言宗

古義、新義の二派あり、而して古義に又八派、新義に二派あり、其派名を揭ぐれば左の如し。
東寺派、御室派、大覺寺派、泉涌寺派、小野派、山階派、醍醐派、高野派、(以上八派古義)、智山派豐山派(以上二派新義)
寺院數―一萬二千七百五十九。
學校―眞言宗聯合高野大學、京都大學、京都中學高野中學、豐山大學、豐山中學、智山大學。

●天台宗

天臺に三派あり左の如し
單稱天台、寺門派、眞盛派。
寺院數―四千七百九十八。
宗務總直轄末寺十一ヶ寺。
學校―天台宗大學、同中學。
備考 天臺宗には修驗派、地神盲僧、空世派、安樂律院部等の附屬敎派あり。

●眞言律宗

西大寺(大和)を本山とし奈良法華寺、東京湯島靈雲寺等之に屬す。
寺院數―不詳

●淨土宗

單稱淨土宗、西山派の二派あり。
單稱本山、知恩院(京都)、西山派本山、誓願寺(同所)
寺院數―八千三百二十。
學校―宗教大學、各地中學。

●臨濟宗

臨濟宗を左の十派に分つ
天龍寺派、相國寺派、建仁寺派、南禪寺派、妙心寺派、建長寺派、東福寺派、大德寺派、圓覺寺派永源寺派。
右十派の他に左の四本山あり。
佛通寺、方廣寺、向嶽寺、國泰寺。
寺院數―六千百二十九。
學校―臨濟大學、其他各派中學。

●曹洞宗

永平寺(越前)、總持寺(能登)の二本山あり、通稱能、越の二派と呼ぶ。
寺院數―一萬四千九十四。
學校―曹洞宗大學、同中學校。

●黃檗宗

萬福寺(山城宇治)を本山とす。
寺院數―六百六。

●眞宗

眞宗に左の十派あり
本願寺派(西)、大谷派(東)、高田派、木邊派、興正寺派、佛光寺派、出雲寺派、山元派、誠照寺派、三門徒派。
寺院數―一萬九千百七十六
學校―佛教大學、大谷大學、各中學。

●日蓮宗

日蓮宗を六宗に分つ事左の如し
▲單稱日蓮宗 (不受不施、不受不施講門の二宗あり)▲本門宗▲顯本法華宗▲本門法華宗▲法華宗▲本妙法華宗。
寺院數―五千〇六十。
學校―日蓮宗大學、其他中學。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

●時宗
・清淨光寺(神奈川縣)を本山とす。
寺院數—五百二十一

●融通念佛宗
大念佛寺(攝津)を本山とす。
寺院數—三百六十三

▲八萬の寺院と十萬の僧侶

以上の統計は稍々粗雜ではあるが、最近二三年間の調査に成れるものを參考したのであるから大體の上に於て大した間違は無い筈である。而して此の統計より見れば、現に日本佛教は實に十八宗、四十一派の多きに分れ寺院の數八萬に近く僧侶は十萬と數へられて居る。就中眞言曹洞、淨土、眞宗、日蓮の如き各宗は日本佛教中の大宗派として其の勢力は却々優勢なものである。

今假に一宗派毎に百萬の信徒を有つて居るものとすれば日本の佛教信徒は實に四千萬以上に上るべきである、其數の大なる點に於て洵に慨嘆すべきではないか如斯其の數の上より云ふ時は日本佛教の現勢は實に驚く可きものがある。而して其形に於ても大なる殿堂を有し、寺有の不動產、動產を有して容易に動す可からざる實力を有して居る。隨つて佛教寺院の僧侶は、基督教の牧師等が僅かの傳道資金を海外に仰いで、窮々として居るやうな有樣ではない、彼等の顏には何處となく悠長な處が見える。

併し乍ら之れは單に表面から見たる日本佛教の現勢であつて、之れを裏面に入つて探査するに決して彼等の現狀は優勢ではない、否日本佛教の現狀は當に步一步廢滅の底地へ陷りつゝあると斷言し得るのである。

▲寺院と遊廓

余は今佛教寺院の現狀が如何に頽廢に傾きつゝあるかの例證を擧ぐべく限りもなき多くの材料を有して居る。併し乍ら今は其の時間を有たぬのと、紙數に限りあるのとに依つて遺憾乍ら之れを省くことゝする。

只終りに一言し度いことは、日本の佛教寺院の現狀と遊廓の現狀とが或點に於て似て居はしないかと云ふ事である。

人智が發達せず、科學的思想の普及されぬ時代には、個人的にも亦社會的にも道義の觀念、情操と云ふものが一般に低く且つ單純である、隨つて迷信が多く行はれ、現實的快樂を以て最極とする樣になるは必然の勢である。併し一度人が智慧の光明に照されて、自覺するに至つては、前代の宗教、前代の藝術、前代の社會組織に對して不滿を感ぜずには居られなくなるも亦必然の事である。而して寺院も遊廓も目醒めたる現代の新人には意義なき無用の長物たるに過ぎない。

遊廓は其性質上社會と密接して居つたので、早く既に社會的制裁を加へられ日一日と自滅に近づきつゝある。

其の教理に深遠なる哲理を有し、其歷史に無視す可からざる價値を有し乍ら、然も其眞生命を失ひ大なる形骸となつて當に倒れんとしつゝある、日本佛教の現狀に對して、吾人は實に同情の念禁じ得ざるものである。(完)

●附記● 余は基督教徒に非ず、現に佛教徒の一人なり、今此稿を草するに當りて萬感交々至る嘻々(三月七日)

小說

春の家

大石枕月

右は現代式所謂假面的文明の病弊を一切說破諷刺して、人心の歸趨すべき概てを論じ、主として健實の思想、理想の家庭の標本を示して之れを指導せるもの、筆法をマックスノルダンのパラドックスに倣ひ、基礎を靈肉調和の所謂第三帝國に採る、拙文よく意思を發表し不得と雖又貴兄により御添削の勞を賜はらば貴誌の記事たる事を得べきか。（枕月）

其の一　通りの光景

空は眞青にすみ渡つて、波の靜かな太平洋の樣だ。日光は淡紅色の眼ん玉を、今に芽を出す時世を御覽といゝたい樣な底力のある庭の木立を滑つて、櫛の齒と立列ぶ灰色の建物や、蜘蛛の巣の樣な電線を照している。カラッ、コロッと歩む度に反動のある道路には、自然天然の力を奮はれた、浮世の敗殘者が恨めしさうに道行く人をながめてゐる。

可愛想なのは銀座の柳、都大路を吹き荒ぶ、筑波颪や秩父颪に其身を任せ、足は枠に責められて、見捨られたか此私を誰も庇護する人もなしと、倩々身を果敢なんで、泣くに泣かれぬ辛さかなと、世をかこつて居る風情、憐れ愍然、眞に同情の涙を流して遣るのは乃公一人、さりとは心細い世の中。

世は文明だとか、開化だとか、御陰と神洲帝國も、赤い眼玉の簑蟲や、青い眼をした芋蟲までが、土着の黑い頭の動物を侵害して、地外法權だの、領事裁判だのと横風を極め込んで、意張ッて御座ッたが。一寸の蟲にも五分の魂で、小さいけれ共、ヒリヒリとする唐辛、葵利いたか眼に涙で、獨逸も此奴も、驚愕仰天したとは、坐ろ痛快である。

まだ薄寒いが、カンカンした梅日和、遊意勃々として堪へられない。エ、儘よ出掛樣と、薄暗い、さうして、陰氣な路次の溝板を踏んで、飛び出せば、急にワン〳〵、吠へつく、エ、畜生。厭に人を疑ふ樣な、咀ふ樣な、一寸氣味の惡い、不思議な眼付をして、尻尾を捲て、卑怯千萬にも、一喝されたら逃出さうとして居る癖に、ワン、馬鹿に前膝の強い奴だ。今の今迄虚勢を張つて居た先生、クスン、クスンと、人糞や、殘飯を探つて居る。さう、さう、其所等傍りにウヨ、ウヨして居る、萬物の靈長樣、何の取得がないと思ふたら、いや、あるある、今の犬によく似た眼付だ。きぜわしさうに、何を嗅ぎつけて何所に行くのだらう。と人の事を、頭痛に病んで居樣ものなら、夫れこそ大變だ。

プウ、プウと、失敬千萬にも遠慮會釋もなく、臭い、臭い、鼻持ちのならない放屁を赤面もせず遣ッて行く、文明とやらの化物に、人の戀地の邪魔する奴は、馬に蹴られて死ぬがよい、とか、何とか笑はれる。最先よしと駈出せば、オイオイ、コラッ、左側勵行、チッ、忌々しい此ポリス。

チリン、チリン、ア、、驚愕した、此の傍若無人の電車に。大變、大變と、まるで天下の大事が突發した樣に、黑頭が、蟻の甘きにつく樣に磁石に鐵が吸込れる樣、丁度長鯨の百川を吸ふ樣に蝟集する。何の事だい御膝許に血を流すなんて、粗疎かしい奴があるものそんな安い命は八文にも通用せんよ。オツト、ドッコイ、今度は自轉車の御入來。人事ではない、間誤、間誤すると此方の命が危ない。

命あつての物種主義のチャンコロでなくても、天晴金覆輪の英雄豪傑でも、乃至は何でも、君子危きに近よらず、なんていふてゐ樣ものなら、五尺の身體の置き所があるまい。其れも其筈一寸八分の觀音樣でさへ淺草へ御隱居する世の中だもの。

其所へ行くと、昔し、昔しの其の昔、適れ名君內匠を、鮒だふなだの上野は、先見の明ありだ。道理なり、濱の眞砂は

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

盡くる共、世に收賄漢はつきないからね

アッ、篦奴氣附ろ田舍ぺエ、オヤ〱物騒千萬。

歌舞伎座を神社と間違て禮拜する赤毛布連、三越白木を見て、あれやなんだんぺエ、俺等が方の芝居小屋より、一寸大けい、オヤ〱、失策た、失策たと、虎の子をして遣られ、今更らしく成程ねへ生馬の眼を拔く所だ、と、感心するのはまだ〱。ぐず〱すると、鼻毛三本も無事には濟まないよ。

ケバ〱した、化粧の者が白中公然花の御江戸なら卒知らず、文華東洋第一とある、東京さあに出るとは、偖て、さて物騒至極の文明だ。これでもお巡さんが千人とは、ハア分らねへ、と、泣いた所で始らない。

奪る方が泥棒で、とられる方が篦棒とは、今の越前様も粋な裁きを遣り居るわい。

三越白木は之れはかうだい、知らなきや教へませうと、旅館の兄さん曰く、銃殺！撲殺！追剝！そうして良人を追剝の憂目に逢せて、令夫人が美しい春の裝ひを慥へる所、其大問屋とはさて、さて、險呑〱。

オ、怖や、五色の酒の一杯機嫌、妾等にも言分が御座い。抑も社會は男女ありて成立す、然らば平等ならざる不可、然るに東洋の女、殊に日本の女は、エヘンエヘン、と、咳一咳、姫御前のあられもない、文金島田に立て矢の字ならまだしも雀の巣の様な頭で、白壁の様な厚化粧ぐいと懐手をして、倶利迦羅紋々の肌をオン出せば、大向から、いよふ音羽屋！巻舌交りの氣焔なんかと來たら、下手な男は尻餅を搗く。いや御主義御尤だとでも申さうものなら夫れなら大事件出來する。憐の老爺、七輪暖爐にも足りない、藥罐頭から湯氣をポッポと出し。何だい此の甚張野郎、厭に蓮葉女の肩をもちやがつて、何だい、舊弊人だと彼女等馬鹿にしやあがつて、なんだ、かんだと理屈を言やあがるが、そんな事たあ、千年も前から、女でなけれや、夜も日も明けねいといふてらあ篦ん奴。

成程、成程、御説御尤千萬、然らばだねへ、姉等は不取敢、世の中の理をば知れるといふ奴も吾れは何所から來たを知るまい、と。云ふ事になる譯だが。果して、何れが是か非か、此所、所謂學者の主觀客觀、蓋し黒岩さんではないが宇宙の大自覺かね。ハッハハア、

黒頭の蛆虫先生何にが、何にやら盲蛇、今歳の卵ではないが、鳩が豆鐵砲を喰た様な顔をして居る所、よかつたれ、大國民。

オヤ、オヤ、拜金宗猶太寺、大廈高樓の大商店、何時見ても御客の居つた試なし、どうして其日を送つて居る事やら。呑氣だれ、ニッポノホンの蓄音器な、御獅子の様な大口あいて、御謡き遊ばす先生もあり。オット、ドッコイ、此方もウッカリ渦に巻込まれる所、之れでも大事の用を控へた此身體。

遣繰政策の成金の使徒が、銀行に塡保金持參の刻限と見へて、來るはくるは、自轉車が、走れ〱走馬燈、法網疎なりと雖遂に洩さず、商法の小切手交換は、呑舟の魚、松波さんでも御存じあるまいんにや、惡の盛りに神祟なしだとよ、はて、さて、面妖な世の中。チリン、チリン、參り損じたり電車に、待てば甘露の日和かな、來たきた上野行き、オヤ、オヤ滿員、何て間が惡いでせう。生存競爭の落伍者、まるで試驗に落第して、不取敢、鳶に魚を淩はれ、狐に油揚よろしくの體裁。嘸ぞかし黒頭の動物が笑ッた事だらう。(續く)

■■天鼓の響き■■

千東町より

淺草　小原克己

日本第一の魔窟新吉原と、淺草公園千束町一帶の魔窟の中程而も夜の更るに從ひ人通り繁しき千束町通りに、私は十年以來住居し、よく其裏面を知り、憫然なる彼等同胞を、如何にせば牢獄より救ひ出し得るかの問題に就ては、何物をか求めて居りました。何れの時にか必ず壯麗なる、惡魔の宮は、倒壞せられ可憐なる、娼婦も、社會に平等の權利を得らるゝ時機あるを信じて居ました。

●●●吉原大火の際私はきはどい處で其の難は免れたりしも、其日は安息日にて、教會にて火を知り歸宅せし頃は、吉原の過半燒失後なりしも家財商品を、其儘屋上に上り、大古ネロ皇帝が羅馬の大火を見たる、其れとは相違あれ共、神の攝理が、日頃待ち望みし魔の宮が、破壞せらるゝ前兆ならかんかと、快心の笑を禁じ得ざりき。火災後、吉原の復活困難と、不景氣を見越して、土地の人々は、憂ひて居りましたが、此好機會に無論廢止移轉の面倒もなく、復舊の如何に早かりしか、二三軒は三日目に既に營業を開始して、居りました。私は否多くの人々も惡魔の勢力の絶大なるに、驚いたことでしょう

●●●廓清會の創設存在を知りて、入會の機を失せしは私の如く、此の場所の内外を、數年目擊して、所謂、矢も鐵砲も通るまいとの、淺薄な考へから、此樣な叫が、どうかと疑問もありました。然るに昨年より、本誌を愛讀して、山室大佐の百人研究を見て、總てを信ずる私は、一層感奮しました。又二月號に於ける、「汝等の戰に非ず、エホバの戰なり」の記事は、よく疑問を解くことが出來ました。會員諸氏、此大抱負の下に、奮鬪致しましょう。

●●●高潔なる働きをなす廓清會に、其必要を痛切に感じ居る私が、早く馳せ加はざりし理由は今一つある。其れは遊客の多數が、無學なる下級勞働者輩よりは、將來有爲なるべき學生官吏會社員風の人々、比較的多數にて、殊に彼等は近年の所謂不景氣にも、收入に差して異變なきゆえ、一層其弊を著しく感ぜらるゝ爲に、教育あり人格の何物なるかを解し得る彼等を救ひに導くこそ急務にて、結果は惡魔の自滅にあると思はれたからです。大火後無理な算段をして、出來上りたる壯麗なる築造物の祟りは債鬼となり、樓主の苦境は今の吉原を實見せば空家の多い一事でも其れと知れますが、其一面には所を換へ恐るべき惡魔は其の勢力を繁殖して居ります。之等の事も又機會を得て種々と考へて見たいと思ひます。會及會員諸氏の奮鬪を望む。

是れ廓清會の賜もの也

丹波　出口榮藏

貴會益々御隆盛奉慶賀候、却説、我が綾部靑年會にては、去月十五日大演説會開催に決し、小生も辯士の一員に加へられ出席することに相成候、然るに素より淺學菲才の愚生、其話題に苦しみ材料蒐集の結果、社會廓清の第一歩として藝妓論と題し、全廢を絶叫したる次第に御座候、當地は僅に千戸許りの田舍町には候へ共、山陰、阪鶴、京都三線の交叉點に位し、蠶糸業中心にて、逐年發展の著しき處に有之、娼妓は置かざるも、遊廓ありて藝妓三十餘名を算し、此の調子で往けば數年の後には貸座敷業をも現はれん現勢に瀕し居候。茲に於てか廢娼の第一壘戰として、藝妓絶廢を叫ぶも亦徒事ならずと信じ、愚見を披瀝したるに、續々と詰掛けたる八百餘の聽衆も案外同情同感の反響有之、小生の吶辯にも、拍手大喝采を博したる次第に御座候。是れ全く平素貴會より養はれたる賜と痛切に感謝の至りに不堪、別紙當日の狀況を記載せる當地實業月報を貴覽に供し、益々將來の御指導を仰ぐと共に、貴會の爲め微力を致さん

の決心に御座候。亂筆多罪。

(前略)『出口榮藏君の藝妓論に入り、君の快辯を以て、藝妓の墮落及び之が靑壯年者の品行並に疾病上に莫大なる惡影響を來す事より、遊興に費す、金錢上の實例を述べ、明瞭銀行綾部銀行貯蓄銀行の破綻して地方經濟に激甚なる、禍害を與へたる素因が酒と藝妓とにありしを切論し、藝妓の爲めに、尊き家庭に風波ある少なからざるを歎じ、藝妓須く全廢すべし。止むを得ずんば先づ客の品性を高尙にし、藝妓をして藝妓たらしむべく藝妓自身に於ても「藝妓すれどもこの身は賣らぬ產んで吳れたる親がある。」てふ自覺をなさしむべしと、縱橫に論じて降壇。』(實業月報)

犯罪の根源

山形　大田彌三郎

公娼制度害惡の甚大なるは今更喋々として、陳述せざるも、宜敷諸兄姉の、熟知の事ならん、左れど、私は本會員として、默視し難き他に多く比類なき、害惡の事實がある、故に、貴重なる本紙の一部を犧牲に供して迄も、御照會致し、以下話の犯罪の根源は、何處にあるやを、公平なる會員諸兄姉の判斷を乞ひ度き次第である。

玆に昨年末我郷山形縣下の、各新聞紙は、一齊に斯と報じた、曰く、父大玄能を奮つて、實子の頭を粉韲し殺害した話である、是を讀んで、誰か、其の眞相を知らんと欲せざる者あらんや。彼の父にして、果して狂亂せしか、將又酒上なるかといふに實は正氣の沙汰である。其の顚末は、玆に、堅氣なる息子あり、一度、靑樓に至り一夜の情を買ふに、其の妙味を得てか、忘れんとして忘る可からざるに至り、數年に亘り登樓回數幾何なりや。放蕩に放蕩、豪遊を極め、家業をも顧ず、故に父に於ては、百方之を改悛せしむるの策を講じたれど、息子は頑として止まず、益々酒色に耽溺し、祖先傳來の、家產を蕩盡した。今は父に於ても、せんすべき策もなしと、實子の將來を悲觀し怒氣一時に發し、殺害に若かずと石割用一貫二百匁の大玄能を持て熟睡せる、實子の頭部を粉韲したのである。嗚呼悲慘と云はんや、此上なき最愛の實子を我手にかけて、殺害したる決意怒氣やいかばかり、直と警察へ自首した後相當裁判の宣告を受けて、殺人犯として、鐵窓裏につながるゝ身となつたのである。嗚呼同情すべきは、彼の父ならずや、彼の息子にして放蕩せざれば、かかる悲劇は、演ぜしめざりしを、是れ息子最初一回の登樓せし火導の爆發ならずや。

嗚呼恐しきは靑樓なり、憎むべきは公娼なり、玆に前述中、犯罪の根源は、果して何にありや、父にありや、子にありや、否余の判ずるに、是れ堅氣なるを放蕩に導きし、娼妓の業にあり、否々娼妓は公許を受けし正業ならずや、是正業とせば、斯の如き犯罪製作業を、許可せし公娼制度其貴を負はざる可からず、全廢す可きは公娼制度、オ、會員諸兄姉、宜敷盡力あらせられ、一時も早く、公娼の廢滅を祈つて止まぬのである。

▲投稿歡迎

公娼私娼の問題、婦人問題、或は風紀の爲めに奮鬪したる人の逸話等、何にても可なり、會員諸吾の投書寄稿を歡迎す。

▲會費納入

會費はすべて前金にてなるべく左の振替口座にて拂込み相成り度し、なるべく郵便集金の督促を受けられざるやう望む。

振替口座東京二七〇七二番

▲昨年の一月號

及二月號御不用の方は本部にて必要がありますから御惠送を切望す。

▲會員の文書類

は便宜上すべて左の編輯所宛に希ふ

東京市神田區今川小路一丁目三番地

廓清編輯所

大正四年三月十四日納本　一部定價金六錢
大正四年三月十五日發行（每月一回十五日發行）

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol. V March. 1915 No. 3.

CONTENTS.

Purity Notes. H. Ito.
Mission of the Women of to-day. M. Masutomi
The violent Action at the Kawasaki Quarter. H. Ito.
On the Morality of Election. Count. Ōkuma.
Deserted Villages and demoralizing Women. D. Sōda.
Intemperance and its Results to the Off-sprimgs. Dr. K. Katayama.
The mistaken Institution of the Publicity of Prostitution. Dr. S. Uesugi.
A letter to a certain Woman. Mrs. K. Hinata.
Recent History of the Women's Movement in Europe and America. Prof. I. Abé.
Japanese Buddhizm and Prostitute Quarter. K. Chiba.

THE WOMAN'S FREEDOM AND PROSTITUTION.

"Sir, get you something of our purity and we will of your strength: we ask no more: that is the sum of what seek we."—GEORGE MEREDITH (*Ballade of Fair Ladies in Revolt.*)

The history of civilisation has been the history of the struggle of man to emerge from bondage to freedom. Next to food and clothing the strongest craving in human nature is for freedom, and we find nation struggling with nation, and class with class, for the recognition of those rights which they instinctively feel to be due to their humanity. Without freedom the moral sense can never be fully developed; for freedom connotes responsibility, else we have mere licence. Political freedom, for example, means not freedom from law, but freedom to make the laws by which we are governed. Economic freedom means not freedom from labour, but freedom to sell one's labour. The more advanced a country is in civilisation, the more strongly is the freedom of the individual asserted.

Now it is certain that the goal of human liberty can never be reached if one-half of the human race lags behind. What is known as the Woman's Movement is simply an integral part of the whole democratic movement, the essence of which is to remove the artificial inequalities between human beings and to allow the free development of their faculties. If we use our simple powers of observation we need not go to Aristotle to learn that "faculty is begotten of function, and soul, like body, grows according to the modes in which it is exercised." Yet we remain hide-bound by tradition, and it is still commonly feared that if woman's nature be allowed

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

free play she will become rapidly unsexed; as if men knew so much better than nature what constitutes normal womanhood!

The lesson that the twentieth century has to learn is that women are human beings first, and women after-wards; and the task the twentieth century has to accomplish is the right adjustment of the relations of the sexes, whether social, economic, or political.

Thinking women are no longer in ignorance of the complex social system in which they are born, and, now they are realising the facts, they will not rest content until with the co-operation of men the shackles of the old sex bondage are cast aside. In marriage and out of marriage the majority of women are to this day the bond-slaves of sex. For a woman without property or marketable talent there remains nothing but to accept of some man; and countless women are forced by social conditions to marry in violation of the instinct of selection which is the rule in nature.

Surely the almost logical result of such a training is to induce a girl whom circumstances have shut off from happy marriage or economic independence to fall back on her sex, whether within marriage or without, as her only asset. The spirit of the woman's movement, which is the desire for the liberty and responsibility of women and their fraternity with men, will, by inculcating a sturdy independence, strike inevitably at the very roots of prostitution.

The solution of the problem of prostitution must come through the frank co-operation of women and men. Much can be done by putting economic freedom within the reach of women and thereby ensuring her physical self-possession; but above all we must look to the increasing self-respect which she will gain through her consciousness of herself as a human being possessing equal opportunities with men. Men will then cease to regard women as merely auxiliary human beings, the essence of whose existence is to contribute to their comfort and to flatter their self-esteem (the frankly accepted attitude in many countries to-day); but will, work with them as comrades, each bringing a contribution to the common weal.

A physiological necessity is often pleaded in extenuation of prostitution. That is a question of fact, and at present the evidence seems to be somewhat conflicting. But one thing is certain: the modern woman will oppose any system which attempts to secure the physical well-being of men and the chastity of one class of women at the expense of the ostracism, degradation, and disease of another class of women. If our present social conditions necessitate the maintenance of such a class, then we must demand the readjustment of social institutions to the well-being of the whole community.

We build our hopes on the independence, the moral strength, and the clear vision of modern womanhood, and on the free and wholesome comradeship and mutual respect of men and women. Women are seeking emancipation not merely for their own direct benefit, but rather that they may be able to work side by side with men for the regeneration of society, and in the name of their common humanity they must seek the eradication of the evil that casts so ugly a shadow on modern civilisation.

—F.M.Mc N.

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

院長診察、月、水、木、金午前、入院隨時

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番（病院用）　八九八番（自宅用）

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長醫學士　高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ 二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院診後應需

最近市内の有力なる小賣店の報告に曰く
クラブは一番品が良いので

齒磨モ白粉モ洗粉モ

近來クラブばかりが賣れて居ります

クラブは一番品が良いから
近來面白い樣に賣れて居ります

(明治四十四年八月一日第三種郵便物認可)(大正四年三月十四日納本)(毎月一回十五日發行)